

令和5年度定時総会

令和5年5月17日



確かな医療を支える臨床検査

一般社団法人 **日本衛生検査所協会**

Japan Registered Clinical Laboratories Association

令和5年度定時総会日程

1 期 日 令和5年5月17日（水）

2 場 所 ホテルニューオータニ東京 地下1階 おり鶴（麗）
〒102-8578 東京都千代田区紀尾井町 4-1
TEL 03-3265-1111

3 時 間

会 議	時 間 帯	会 場
定時総会	14:00 ~ 14:30	ホテルニューオータニ東京 おり鶴（麗）

令和5年度定時総会次第

1 議長選任

1 議 事

第1号議案 令和4年度事業報告及び決算報告に関する件

第2号議案 役員選任に関する件

第3号議案 その他

1 閉会挨拶

第 1 号 議 案

令和 4 年度事業報告及び決算報告に関する件

◇事業報告

I 会議

- 1 理事会
- 2 常任理事会
- 3 委員会

II 事業

- 1 臨床検査の普及
- 2 検査精度保証
- 3 教育・研修
- 4 広報活動
- 5 日本衛生検査所協会表彰
- 6 日衛協アンケート調査報告
- 7 行政、他団体との連携等
- 8 策定・公表したガイドライン及び文書

◇決算報告

Ⅱ 事業

1 臨床検査の普及

(1) 臨床検査普及月間

臨床検査普及月間事業は令和4年度で45回目を迎え、衛生検査所の精度管理、学術技能の向上、検査体制等の総点検を行い、衛生検査所のレベルアップを図るとともに、臨床検査の正しい認識を社会一般に広め、衛生検査所の信頼を向上させることに努めた。

期 間 11月1日 ～ 11月30日
協賛団体 公益社団法人 日本医師会
一般社団法人 日本病院会
一般社団法人 日本臨床衛生検査技師会

(2) 本部・支部臨床検査普及月間大会の開催

臨床検査普及月間大会は、令和4年11月24日(木)14時15分より、東京・千代田区隼町のグランドアーク半蔵門に於いて、日衛協本部との共催により次の内容で実施した。

<スローガン> ウィズコロナ 検査が守る あなたの未来

<内 容>

14:15～15:15 記念講演

演題 今を一生懸命生きる～当たり前のことはない人生～
講師 山田 恵里 氏 (東京2020オリンピックソフトボール日本代表主将・金メダリスト)

15:30～16:30 記念式典

開式の辞
会長挨拶
来賓祝辞
第23回一般公募エッセイ「検査がくれたもの」入選者表彰
永年勤続者表彰 (対象：関東甲信越支部)
総代：藤野美穂子氏 (ピーシーエルジャパン)
表彰者225名(15施設)
日衛協認定士・認定証授与 (対象：関東甲信越支部)
総代：(営業)白井祐空氏(東京保健会 病体生理研究所)
(検査)関根健太氏(ビー・エム・エル)
営業認定士44名・検査認定士1731名(10施設)
閉式の辞

一般社団法人日本衛生検査所協会 令和4年度事業報告

一般社団法人日本衛生検査所協会は、衛生検査所の資質の向上と検査技術の研鑽を図り、よって国民の健康の保持増進に寄与するため、令和4年度は、次のとおり各種事業を実施した。

なお、新型コロナウイルス感染症のため、総会、各会議、及び各支部月間大会等の事業が規模を縮小しての開催となった。

◎会員数 令和4年4月1日 392施設・令和5年3月31日 394施設
 [入会会員数 8施設・退会会員数 6施設]

I 会 議

1 理 事 会

①構 成

役 職	氏 名	所 属
会 副	川 藤 芳 健 三 介	(株)保健科学研究所
	東 楠 河 近 庄 橋 大 石 横 広 近 岡 久 伊 杉 早 今 大 杉 田 森 荒 菅 真 松 久 堤 福 飛 勝 森	(株)ビー・エム・エル (株)エスアールエル (株)LSIメディエンス (株)ファルコバイオシステムズ (一社)日本衛生検査所協会 札幌臨床検査センター(株) (株)江東微生物研究所 (株)江東微生物研究所 (株)日研医学 (一財)総合保健センター (株)近畿予防医学研究所 (株)福山臨床検査センター (株)四国中検 (株)キューリン (株)サンリツ (株)武蔵臨床検査所 (株)早川予防衛生研究所 (株)メディック (一社)京都微生物研究所 (株)中央微生物検査所 日本医学(株) (有)久留米臨床検査センター (株)ビー・エム・エル (株)LSIメディエンス (株)保健科学研究所 (株)エスアールエル (株)保健科学研究所 (一社)日本衛生検査所協会 (一社)日本衛生検査所協会 (株)京浜予防医学研究所 (株)日本医学臨床検査研究所 公認会計士・税理士森山高行事務所
専 務 理 事	田 藤 司 本 堀 田 山 田 本 内 米 丹 田 川 井 藪 村 端 田 井 原 柴 本 川 川 田 鳥 間 山	久 近 東 楠 河 近 庄 橋 大 石 横 広 近 岡 久 伊 杉 早 今 大 杉 田 森 荒 菅 真 松 久 堤 福 飛 勝 森
	芳 健 俊 智 一 治 人 充 夫 衛 強 一 一 介 輔 淳 充 吏 光 樹 彦 彦 一 郎 貴 人 一 誠 聡 好 之 功 人 行	久 近 東 楠 河 近 庄 橋 大 石 横 広 近 岡 久 伊 杉 早 今 大 杉 田 森 荒 菅 真 松 久 堤 福 飛 勝 森
	専 常 任 理 事	久 近 東 楠 河 近 庄 橋 大 石 横 広 近 岡 久 伊 杉 早 今 大 杉 田 森 荒 菅 真 松 久 堤 福 飛 勝 森
	専 常 任 理 事	久 近 東 楠 河 近 庄 橋 大 石 横 広 近 岡 久 伊 杉 早 今 大 杉 田 森 荒 菅 真 松 久 堤 福 飛 勝 森
	専 常 任 理 事	久 近 東 楠 河 近 庄 橋 大 石 横 広 近 岡 久 伊 杉 早 今 大 杉 田 森 荒 菅 真 松 久 堤 福 飛 勝 森
	専 常 任 理 事	久 近 東 楠 河 近 庄 橋 大 石 横 広 近 岡 久 伊 杉 早 今 大 杉 田 森 荒 菅 真 松 久 堤 福 飛 勝 森
	専 常 任 理 事	久 近 東 楠 河 近 庄 橋 大 石 横 広 近 岡 久 伊 杉 早 今 大 杉 田 森 荒 菅 真 松 久 堤 福 飛 勝 森
	専 常 任 理 事	久 近 東 楠 河 近 庄 橋 大 石 横 広 近 岡 久 伊 杉 早 今 大 杉 田 森 荒 菅 真 松 久 堤 福 飛 勝 森
	専 常 任 理 事	久 近 東 楠 河 近 庄 橋 大 石 横 広 近 岡 久 伊 杉 早 今 大 杉 田 森 荒 菅 真 松 久 堤 福 飛 勝 森
	専 常 任 理 事	久 近 東 楠 河 近 庄 橋 大 石 横 広 近 岡 久 伊 杉 早 今 大 杉 田 森 荒 菅 真 松 久 堤 福 飛 勝 森
	専 常 任 理 事	久 近 東 楠 河 近 庄 橋 大 石 横 広 近 岡 久 伊 杉 早 今 大 杉 田 森 荒 菅 真 松 久 堤 福 飛 勝 森
	専 常 任 理 事	久 近 東 楠 河 近 庄 橋 大 石 横 広 近 岡 久 伊 杉 早 今 大 杉 田 森 荒 菅 真 松 久 堤 福 飛 勝 森
	専 常 任 理 事	久 近 東 楠 河 近 庄 橋 大 石 横 広 近 岡 久 伊 杉 早 今 大 杉 田 森 荒 菅 真 松 久 堤 福 飛 勝 森
	専 常 任 理 事	久 近 東 楠 河 近 庄 橋 大 石 横 広 近 岡 久 伊 杉 早 今 大 杉 田 森 荒 菅 真 松 久 堤 福 飛 勝 森
	監 事	川 田 鳥 間 山

R5.3.31 現在 (敬称略)

②開催状況

回	開催年月日	審議事項	備考
第1回	令和4年5月23日	①令和3年度事業報告及び決算報告に関する件 ②定款変更に関する件 ③役員選任に関する件	平均出席率 97.8%
第2回	令和4年5月23日	①会長（代表理事）の選定に関する件 ②副会長等の選定に関する件 ③各委員会の担当副会長、委員長、委員等の選任に関する件 ④各規程及び規則の改定に関する件 ⑤会員の入退会に関する件	
臨時	令和5年3月23日	①令和5年度事業計画案に関する件 ②令和5年度支部交付金及び予算案に関する件 ③日衛協創立50周年記念事業に関する件 ④日衛協定時総会に関する件 ⑤令和5年度協会表彰候補者に関する件 ⑥細菌検査 塗抹・培養 ガイドライン及び感染症法に準拠した衛生検査所における病原体等安全管理マニュアル（ひな型）並びに細菌検査検体取り扱いガイドラインの改訂に関する件 ⑦規程の改定に関する件 ⑧ISO/TC212 WG1 国際会議への協賛金に関する件 ⑨医療機関に対する窮状文書に関する件 ⑩令和5年度厚生労働科学研究事業に関する件 ⑪会員の入退会に関する件	

2 常任理事会

①構成

役職	氏名	所属
会長	久川芳三	(株)保健科学研究所
名誉会長	伊達忠一	札幌臨床検査センター(株)
副会長	近藤健介	(株)ビー・エム・エル
〃	東 俊	(株)エスアールエル
〃	楠 智	(株)LSIメディエンス
〃	河田 與一	(株)ファルコバイオシステムズ
専務理事	近藤 功治	(一社)日本衛生検査所協会
常任理事	庄司 吉人	札幌臨床検査センター(株)
〃	橋本 充	(株)江東微生物研究所
〃	大堀 春夫	(株)江東微生物研究所
〃	石田 衛	(株)日研医学
〃	横山 強	(一財)総合保健センター
〃	広田 周一	(株)近畿予防医学研究所
〃	近本 陽一	(株)福山臨床検査センター
〃	岡内 伸介	(株)四国中検
〃	久米 大輔	(株)キューリン

R5. 3. 31 現在 (敬称略)

②開催状況

回	開催年月日	審議事項	備考
第1回	令和4年7月28日	①令和4年度臨床検査普及月間に関する件 ②日衛協令和4年度(第48回)臨床検査精度管理調査の実施に関する件 ③広報事業に関する件 ④創立50周年記念事業に関する件	平均出席率 96.9%
第2回	令和5年1月26日	①令和5年度事業基本方針(案)及び事業計画(案)に関する件 ②令和5年度支部交付金(案)及び予算(案)に関する件 ③創立50周年記念事業に関する件 ④関係団体への委員推薦に関する件 ⑤令和5年度理事会等の開催日程等に関する件	

3 委員会

(1) 総務労務委員会

創立 50 周年記念事業実行委員会（兼務）

① 目的

協会事業計画の樹立運営並びに関連事項の検討

② 構成

役 職	氏 名	所 属
担 当 副 会 長	楠 智	(株) L S I メディエンス
委 員 長	横 山 強	(一財) 総合保健センター
副 委 員 長	大 藪 正 樹	(一社) 京都微生物研究所
委 員	草 野 宏 彰	(株) ビー・エム・エル
〃	成 藤 達 郎	(株) ビー・エム・エル
〃	黒 田 隆	(株) ビー・エム・エル
〃	中 根 康 範	(一財) 総合保健センター
〃	藤 尾 耕 造	(株) 福山臨床検査センター
〃	青 山 竹 彦	(株) ビー・エム・エル
〃	森 田 崇 一 郎	(有) 久留米臨床検査センター

R5.3.31 現在（敬称略）

③ 開催状況

回	開催年月日	審 議 事 項	備 考
第 1 回 (書面)	令和 4 年 5 月 16 日	① 令和 3 年度決算書類の報告について	平均 出席率 87.5%
第 2 回	令和 4 年 7 月 19 日	① 副委員長の選任 ② 今年度月間大会の開催の方向性について ③ 今後の定時総会の開催担当について ④ 個人情報保護法改正に伴う登録衛生 検査所の対応の確認・検討について ⑤ 創立 50 周年事業について	
第 3 回	令和 4 年 9 月 21 日	① 令和 5 年度事業基本方針案及び事業 計画案について ② 令和 5 年度支部交付金案及び予算案 について ③ 規程の改定について ④ 日衛協創立 50 周年記念事業について	
第 4 回	令和 5 年 2 月 21 日	① 令和 5 年度事業基本方針及び事業計 画案について ② 令和 5 年度支部交付金及び予算案に ついて ③ 令和 4 年度委員会活動について ④ 日衛協創立 50 周年記念事業について	

(2) 学術委員会

① 目的

衛生検査に係る学術・技術の研鑽と振興並びに関連事項の検討

② 構成

[学術委員会]

役職	氏名	所属
担当副会長	近藤 健介	(株)ビー・エム・エル
委員長	近本 陽一	(株)福山臨床検査センター
副委員長	奥原 俊彦	(株)福山臨床検査センター
委員	杉田 宏充	(株)武蔵臨床検査所
委員	神谷 厚	札幌臨床検査センター(株)
委員	成田 京子	(株)LSIメディエンス
委員	竹並 健	(株)エスアールエル
委員	荒木 年夫	(株)大阪血清微生物研究所
委員	花川 準司	(株)四国中検
委員	矢島 佑一	(有)久留米臨床検査センター

R5.3.31 現在 (敬称略)

[学術委員会ワーキンググループ6]

役職	氏名	所属
副委員長	奥原 俊彦	(株)福山臨床検査センター
委員	杉田 宏充	(株)武蔵臨床検査所
委員	荒木 年夫	(株)大阪血清微生物研究所
委員	矢島 佑一	(有)久留米臨床検査センター

R5.3.31 現在 (敬称略)

③ 開催状況

[学術委員会]

回	開催年月日	審議事項	備考
第1回	令和4年5月31日	①副委員長の選任について ②令和4年度学術委員会事業活動について ③令和4年度第28回学術研究発表会全国大会について ④令和4年度日本臨床検査専門学院第47期微生物学コースについて ⑤ガイドラインについて	平均出席率100%
第2回	令和4年7月29日	①令和4年度学術委員会事業活動について ②令和4年度第28回学術研究発表会全国大会について ③令和4年度日本臨床検査専門学院第47期微生物学コースについて	

回	開催年月日	審議事項	備考
第3回	令和4年12月10日	①令和5年度第29回学術研究発表会全国大会について ②令和4年度日本臨床検査専門学院第47期微生物学コースについて ③令和4年度医療フォーラムについて ④各ガイドラインについて	
第4回	令和5年3月8日	①令和5年度第29回学術研究発表会全国大会について ②日本臨床検査専門学院について ③各ガイドラインについて ④令和4年度医療フォーラムについて ⑤日衛協ホームページ改訂について	

[学術委員会ワーキンググループ6]

回	開催年月日	審議事項	備考
第1回	令和4年9月12日	①令和4年度医療フォーラム21について	平均出席率100%
第2回	令和4年12月9日	①令和4年度医療フォーラム21について	

(3) 広報委員会

① 目的

広報活動の推進並びに関連事項の検討

② 構成

役職	氏名	所属
担当副会長	東 俊一	(株)エスアールエル
委員長	広 田 周	(株)近畿予防医学研究所
副委員長	橋 本 充	(株)江東微生物研究所
委員	田 中 幸 樹	(株)エスアールエル
〃	伊 丹 淳	(株)サンリツ
〃	古 賀 美 純	(株)アルプ
〃	東 勝 彦	(株)エスアールエル
〃	下 田 哲 也	(有)エフエムエルサービス
〃	江 川 智 広	(株)シー・アール・シー

R5.3.31 現在 (敬称略)

③ 開催状況

回	開催年月日	審議事項	備考
第1回	令和4年4月27日	①協会紙「ラボ」5月号について（確認） ②協会紙「ラボ」6月号・7月号の企画編集案について ③令和3・4年度広報委員会事業について	平均出席率 79.5%
第2回	令和4年5月24日	①副委員長の選任について ②協会紙「ラボ」6月号について（確認） ③協会紙「ラボ」7・8・9月号の企画・編集案について ④協会紙「ラボ」11月号＜臨床検査普及月間特別号＞特集記事について ⑤令和4年度臨床検査普及月間のスローガン案の検討について ⑥令和3年度広報事業について	
第3回	令和4年7月27日	①協会紙「ラボ」8月号について（確認） ②協会紙「ラボ」9月号・10月号の企画編集案について ③令和3・4年度広報委員会事業について ④協会紙「ラボ」11月号特集記事について ⑤臨床検査普及月間ポスター企画案について（ウィズコロナ 検査が守る あなたの未来） ⑥第23回エッセイ「検査がくれたもの」の応募状況（中間報告）について	
第4回	令和4年8月24日	①日衛協ホームページの改訂に関するプレゼンテーションについて ②協会紙「ラボ」9月号について（確認） ③協会紙「ラボ」10・11月号の企画・編集案について ④令和3・4年度広報事業について ⑤臨床検査普及月間ポスター企画案について（ウィズコロナ 検査が守る あなたの未来） ⑥第23回エッセイ「検査がくれたもの」の応募状況（最終報告）について	
第5回	令和4年9月28日	①協会紙「ラボ」10月号について（確認） ②協会紙「ラボ」11月号・12月号の企画編集案について ③臨床検査普及月間ポスター企画案について（ウィズコロナ 検査が守る あなたの未来） ④第23回一般公募エッセイ「検査がくれたもの」採点集計結果について ⑤日衛協ホームページの改訂に関する依頼先候補会社によるプレゼンテーションの採点集計結果について ⑥令和3・4年度広報委員会事業について	
第6回	令和4年10月26日	①協会紙「ラボ」11月号について（確認） ②協会紙「ラボ」12月号・1月号の企画編集案について ③令和4年度臨床検査普及月間ポスターについて（ウィズコロナ 検査が守る あなたの未来） ④令和4年度広報委員会事業について	

第7回	令和4年11月21日	<ul style="list-style-type: none"> ①日衛協ホームページの改訂について ②協会紙「ラボ」12月号について（確認） ③協会紙「ラボ」1月号・2月号・3月号の企画編集案について ④令和4年度広報委員会事業について ⑤創立50周年記念事業について
第8回	令和5年1月25日	<ul style="list-style-type: none"> ①日衛協ホームページ改訂について ②協会紙「ラボ」2月号について（確認） ③協会紙「ラボ」3月号・4月号の企画編集案について ④令和4年度広報事業について ⑤令和5年度広報委員会事業計画について
第9回	令和5年2月22日	<ul style="list-style-type: none"> ①日衛協ホームページ改訂について ②協会紙「ラボ」3月号について（確認） ③協会紙「ラボ」4月号・5月号の企画編集案について ④令和4年度広報事業について ⑤令和5年度広報委員会事業計画について
第10回	令和5年3月22日	<ul style="list-style-type: none"> ①日衛協ホームページ改訂について ②協会紙「ラボ」4月号について（確認） ③協会紙「ラボ」5月号・6月号の企画編集案について ④第24回エッセイ「検査がくれたもの」一般公募について ⑤広報事業について ⑥日衛協事務局創立50周年事業について

(4) 全国運営管理委員会

① 目的

衛生検査所の運営管理の向上並びに関連事項の検討

② 構成

役 職	氏 名	所 属
委 員 長	大 堀 春 夫	(株)江東微生物研究所
副 委 員 長	庄 司 吉 人	札幌臨床検査センター(株)
〃	田 端 隆 彦	日本医学(株)
委 員	伊 達 忠 應	札幌臨床検査センター(株)
〃	佐 藤 英 司	(株)江東微生物研究所
〃	早 川 吏	(株)早川予防衛生研究所
〃	平 田 隆 志	(一社) シーピーエル
〃	今 井 利 光	(株)メディック
〃	諸 橋 政 志	(一財) 総合保健センター
〃	猪 尾 龍 伍	(株)兵庫県臨床検査研究所
〃	横 見 孝 夫	(株)岡山医学検査センター
〃	吉 田 正 則	(株)福山臨床検査センター
〃	加 藤 吉 久	(株)四国中検
〃	金 丸 和 久	(株)四国中検
〃	久 米 大 輔	(株)キューリン
〃	藤 井 賢 治	(株)パソラボ
〃	佐 野 栄 治	(株)エスアールエル
〃	宮 田 靖 則	(株)LSIメディエンス
〃	宇 野 幸 嗣	(株)ビー・エム・エル
〃	牧 平 和 志	(株)ファルコバイオシステムズ

R5. 3. 31 現在 (敬称略)

③ 開催状況

回	開催年月日	審 議 事 項	備 考
第1回	令和4年6月22日	①副委員長の選任について ②当委員会の所管事項について ③当委員会で取り扱うテーマについて	平均 出席率 91.8%
第2回	令和4年7月27日	①衛生検査所の現状報告及び今後の取り組み 1)衛生検査所の雇用状況について 2)検体集配車両等の無事故対策等の検討について ②検体検査受委託における諸問題について 1)公正競争規約遵守の推進について 2)新型コロナウイルス感染症について 3)受検率向上への取り組みについて ③大規模自然災害への対策 (BCP) について ④支部または自社において検討課題となっている事項について	

第3回	令和4年9月29日	<p>①衛生検査所の現状報告及び今後の取り組み</p> <p>1)衛生検査所の雇用状況について</p> <p>2)検体集配車両等の無事故対策等の検討について</p> <p>②検体検査受委託における諸問題について</p> <p>1)公正競争規約遵守の推進について</p> <p>2)新型コロナウイルス感染症について</p> <p>3)受検率向上への取り組みについて</p> <p>③大規模自然災害への対策（BCP）について</p> <p>④社員のヘルスケアについて</p> <p>⑤支部または自社において検討課題となっている事項について</p>
第4回	令和4年10月26日	<p>①衛生検査所の現状報告及び今後の取り組み</p> <p>1)衛生検査所の雇用状況について</p> <p>2)検体集配車両等の無事故対策等の検討について</p> <p>②検体検査受委託における諸問題について</p> <p>1)公正競争規約遵守の推進について</p> <p>2)新型コロナウイルス感染症について</p> <p>3)受検率向上への取り組みについて</p> <p>③大規模自然災害への対策（BCP）について</p> <p>④社員のヘルスケアについて</p> <p>⑤民間クレジットカード会社による営業活動について</p> <p>⑥支部または自社において検討課題となっている事項について</p>
第5回	令和5年1月25日	<p>①衛生検査所の現状報告及び今後の取り組み</p> <p>1)衛生検査所の雇用状況について</p> <p>2)検体集配車両等の無事故対策等の検討について</p> <p>②検体検査受委託における諸問題について</p> <p>1)公正競争規約遵守の推進について</p> <p>2)新型コロナウイルス感染症について</p> <p>3)受検率向上への取り組みについて</p> <p>③大規模自然災害への対策（BCP）について</p> <p>④社員のヘルスケアについて</p> <p>⑤民間クレジットカード会社による営業活動について</p> <p>⑥支部または自社において検討課題となっている事項について</p>
第6回	令和5年2月22日	<p>①衛生検査所の現状報告及び今後の取り組み</p> <p>1)衛生検査所の雇用状況について</p> <p>2)検体集配車両等の無事故対策等の検討について</p> <p>②検体検査受委託における諸問題について</p> <p>1)公正競争規約遵守の推進について</p> <p>2)新型コロナウイルス感染症について</p> <p>3)受検率向上への取り組みについて</p> <p>③大規模自然災害への対策（BCP）について</p> <p>④社員のヘルスケアについて</p> <p>⑤民間クレジットカード会社による営業活動について</p> <p>⑥支部または自社において検討課題となっている事項について</p>

第7回	令和5年3月22日	①衛生検査所の現状報告及び今後の取り組み 1)衛生検査所の雇用状況について 2)検体集配車両等の無事故対策等の検討について ②検体検査受委託における諸問題について 1)公正競争規約遵守の推進について 2)新型コロナウイルス感染症について 3)受検率向上への取り組みについて ③大規模自然災害への対策（BCP）について ④社員のヘルスケアについて ⑤民間クレジットカード会社による営業活動について ⑥支部または自社において検討課題となっている事項について	
-----	-----------	--	--

(5) 精度管理委員会

① 目的

精度管理調査の実施、評価並びに関連事項の検討

② 構成

[精度管理調査結果検討委員会]

役 職	氏 名	所 属
担当副会長	河 田 與 一	(株)ファルコバイオシステムズ
委 員 長	高 木 康	昭和大学
副 委 員 長	菅 野 治 重	鹿島病院感染症診療支援センター
委 員	山 田 俊 幸	自治医科大学
〃	三ツ橋 雄 之	慶應義塾大学

R5.3.31 現在（敬称略）

[精度管理調査委員会]

役 職	氏 名	所 属
担当副会長	河 田 與 一	(株)ファルコバイオシステムズ
委 員 長	高 木 康	昭和大学
副 委 員 長	菅 野 治 重	鹿島病院感染症診療支援センター
委 員	山 田 俊 幸	自治医科大学
〃	三ツ橋 雄 之	慶應義塾大学
〃	久 川 聡	(株)保健科学研究所
〃	宮 川 稔 浩	(株)LSIメディエンス
〃	長谷川 修	(株)ビー・エム・エル
〃	小 島 卓	(株)エスアールエル

R5.3.31 現在（敬称略）

[精度管理倫理審査委員会]

役 職	氏 名	所 属
委 員 長	高 木 康	昭和大学
委 員	菅 野 治 重	鹿島病院感染症診療支援センター
〃	山 田 俊 幸	自治医科大学
〃	三 ツ 橋 雄 之	慶應義塾大学
〃	岡 田 隆 志	リョマホ法律事務所
〃	山 本 雅 子	(株)プロラント
〃	河 田 與 一	(株)ファルコバイオシステムズ

R5. 3. 31 現在 (敬称略)

[プール血清作製に関する委員会]

役 職	氏 名	所 属
委 員 長	高 木 康	昭和大学
委 員	山 田 俊 幸	自治医科大学
〃	岡 田 隆 志	リョマホ法律事務所
〃	山 本 雅 子	(株)プロラント
〃	金 村 茂	一般市民
〃	河 田 與 一	(株)ファルコバイオシステムズ
〃	奥 原 俊 彦	(株)福山臨床検査センター
〃	小 島 卓	(株)エスアールエル

R5. 3. 31 現在 (敬称略)

[精度管理地区委員会]

役 職	氏 名	所 属	支 部
担 当 副 会 長	河 田 與 一	(株)ファルコバイオシステムズ	中 国
委 員 長	奥 原 俊 彦	(株)福山臨床検査センター	
副 委 員 長	守 口 浩 二	(株)QOLセントラルラボラトリーズ QCL福岡	九 州
委 員	小 玉 光 廣	(株)エスアールエル	北 海 道
〃	野 口 健 一	(株)江東微生物研究所	東 北
〃	久 野 義 和	(株)LSIメディエンス	関 東 甲 信 越
〃	辻 永 秀 雄	(株)日研医学	北 陸
〃	林 博 美	(株)メディック	中 部
〃	米 谷 昌 志	(株)ファルコバイオシステムズ	近 畿
〃	谷 本 光 章	(株)四国中検	四 国

R5. 3. 31 現在 (敬称略)

③ 開催状況

[精度管理調査結果検討委員会]

回	開催年月日	審議事項	備考
第1回	令和5年2月13日	①令和4年度(第48回)臨床検査精度管理調査結果について ②令和4年度(第48回)臨床検査精度管理調査結果検討会について ③臨床検査精度管理調査結果報告書原稿の取り纏め方について ④その他 ・令和5年度(第49回)臨床検査精度管理調査の倫理審査について	出席率 100.0%

R5.3.31現在(敬称略)

[精度管理倫理審査委員会]

回	開催年月日	審議事項	備考
第1回	令和4年6月10日	①令和4年度(第48回)臨床検査精度管理調査における血液学項目調査実施の倫理審査について	出席率 85.7%

R5.3.31現在(敬称略)

[精度管理委員会・精度管理地区委員会合同会議]

回	開催年月日	審議事項	備考
第1回	令和4年6月10日	①令和3年度(第47回)臨床検査精度管理調査について ②令和4年度(第48回)臨床検査精度管理調査について	出席率 94.4%

R5.3.31現在(敬称略)

[プール血清作製に関する委員会]

回	開催年月日	審議事項	備考
第1回	令和4年6月10日	①臨床検査精度管理調査におけるプール血清作製について	出席率 87.5%

R5.3.31現在(敬称略)

[精度管理地区委員会]

回	開催年月日	審議事項	備考
第1回	令和4年7月25日	①正副委員長の選任について ②令和3年度(第47回)臨床検査精度管理調査について ・令和3年度(第47回)臨床検査精度管理調査結果検討会 ③令和4年度(第48回)臨床検査精度管理調査について ・スケジュール・調査項目 ・化学、免疫血清学用プール血清の供出 ・HbA1c、血液学用新鮮血液試料の作製及び発送 ④令和4年度精度管理地区委員会事業について ⑤今後の開催日程について	平均出席率86.7%
第2回	令和4年9月30日	①副委員長の選任について ②令和4年度(第48回)臨床検査精度管理調査について ・令和4年度(第48回)臨床検査精度管理調査の進捗状況報告 ・化学、免疫血清学用プール血清の供出・参加施設 ・HbA1c、血液学用新鮮血液試料の作製及び発送 ・新型コロナウイルス遺伝子検査精度管理調査の実施 ③令和4年度精度管理地区委員会事業について ④今後の開催日程について	
第3回	令和5年3月30日	①令和4年度(第48回)臨床検査精度管理調査に関する件 ・令和4年度(第48回)臨床検査精度管理調査概要及び進捗状況等について ・結果検討会について ②今後の精度管理調査に関する件 ・令和5年度(第49回)臨床検査精度管理調査について ③令和5年度精度管理地区委員会事業について ④今後の開催日程について	

(6) 生涯学習推進専門委員会

① 目的

本協会会員の全従業員を対象とした生涯学習通信講座の適正な実施を推進し、従業員の資質向上を図ることを目的とする。

② 構成

[生涯学習推進専門委員会]

役 職	氏 名	所 属
担当副会長	近 藤 健 介	(株)ビー・エム・エル
委 員 長	橋 本 充	(株)江東微生物研究所
副 委 員 長	関 谷 幸 浩	(株)江東微生物研究所
委 員	大 黒 豊 和	(株)京浜予防医学研究所
〃	飯 塚 昌 平	(一財)東京保健会病体生理研究所
〃	五 十 嵐 直 光	(株)エスアールエル
〃	中 田 隆	(株)江東微生物研究所
〃	百 瀬 仁 浩	(株)サンリツ
〃	半 藤 厚 司	(株)ビー・エム・エル
〃	銅 崎 慎 二	(株)LSIメディエンス
〃	岡 田 綾 子	(株)エスアールエル
〃	齊 藤 秀 男	(株)昭和メディカルサイエンス
〃	梅 本 啓 介	(株)ビー・エム・エル
〃	山 崎 祐 二	(株)ファルコバイオシステムズ
〃	真 柴 新 一	(株)保健科学研究所
〃	久 野 義 和	(株)LSIメディエンス
〃	大 塚 正 之	(株)江東微生物研究所
〃	金 山 秀 二	(株)ビー・エム・エル

R5.3.31 現在 (敬称略)

[生涯学習通信講座テキスト及び問題集作成WG]

役 職	氏 名	所 属
委 員	村 瀬 淳 子	(株)LSIメディエンス
〃	中 條 聖 子	(株)エスアールエル
〃	市 村 剛	(株)エスアールエル
〃	甲 斐 田 信 嗣	(株)エスアールエル
〃	福 井 崇 史	(株)ファルコバイオシステムズ

R5.3.31 現在 (敬称略)

③ 開催状況

回	開催年月日	審議事項	備考
第1回	令和4年4月21日	①2021年度生涯学習通信講座提出状況報告 ②2022年度生涯学習通信講座テキスト並びに履修結果確認問題集の作成について ・募集要項・カリキュラム（案） ・テキスト改訂について ・履修結果確認問題集・問題の見直しについて ・遺伝子関連検査・染色体検査コース導入に関する件 ③2022年度 生涯学習通信講座スケジュールについて ④次回開催	平均出席率76.1%
第2回	令和4年9月7日	①2021年度 生涯学習通信講座 総括 ②2022年度 生涯学習通信講座受講受付状況 ③2022年度版テキスト作成の総括と2023年度版テキスト作成の方向性 ④レポート審査 ⑤次回開催日	
第3回	令和4年11月2日	①2021年度生涯学習通信講座総括 ②認定証カード発行に関する件 ③2022年度生涯学習通信講座受講受付状況 ④協会誌『ラボ』11月号への生涯学習紹介記事（カリキュラム、レポート）の掲載について ⑤2023年度における運営方法について ⑥次回開催日	
第4回	令和5年2月1日	①2022年度認定証カード発行（新規・更新）状況報告 ②2022年度生涯学習通信講座提出状況報告 ③2023年度における運営方法及びテキストと履修結果確認問題集作成の分担並びにスケジュールについて ④次回開催日	

(7) 遺伝子関連検査受託倫理審査委員会

① 目的

「遺伝学的検査受託に関する倫理指針」の適正な実施に関する事項の調査・指導

② 構成

[遺伝子関連検査受託倫理審査委員会]

役 職	氏 名	所 属
担 当 副 会 長	河 田 興 一	(株)ファルコバイオシステムズ
委 員 長	中 山 智 祥	日本大学
副 委 員 長	堤 正 好	(一社)日本衛生検査所協会
委 員	菅 野 康 吉	(公財)佐々木研究所附属杏雲堂病院
〃	渡 邊 淳	金沢大学
〃	甲 斐 田 信 嗣	(株)エスアールエル
〃	村 瀬 淳 子	(株)LSIメディエンス
〃	小 原 収	(公財)かずさDNA研究所
〃	鈴 木 誠	(株)ビー・エム・エル
〃	福 井 崇 史	(株)ファルコバイオシステムズ
〃	真 柴 新 一	(株)保健科学研究所

R5.3.31 現在 (敬称略)

[遺伝子関連検査・染色体検査諸課題検討小委員会委員]

役 職	氏 名	所 属
担 当 副 会 長	河 田 興 一	(株)ファルコバイオシステムズ
担 当 理 事 委 員 長	堤 正 好	(一社)日本衛生検査所協会
委 員		
遺 伝 子 査 担 当	古 川 洋 一	東京大学医科学研究所
〃	中 條 聖 子	(株)エスアールエル
〃	小 林 紀 子	(株)LSIメディエンス
〃	糸 賀 栄	(公財)かずさDNA研究所
〃	長 野 誠	(株)ビー・エム・エル
〃	真 柴 新 一	(株)保健科学研究所
染 色 体 検 査 担 当	黒 澤 健 司	神奈川県立こども医療センター
〃	市 村 剛	(株)エスアールエル
〃	別 府 弘 規	(株)エスアールエル
〃	中 澤 勸	(株)LSIメディエンス
〃	山 本 昌 司	(株)ビー・エム・エル

R5.3.31 現在 (敬称略)

(8) BCP（事業継続計画）検討委員会

① 目的

会員衛生検査所間で検査の受委託等の情報共有を可能とするシステム構築等のための具体的将来像、及びその実現に向けたスケジュール案等の検討

② 構成

[BCP（事業継続計画）検討委員会]

役 職	氏 名	所 属
委 員	鈴木 信之	(株)エスアールエル
〃	鈴木 隆雄	(株)エスアールエル
〃	松尾 義博	(株)LSIメディエンス
〃	村上 和生	(株)江東微生物研究所
〃	山下 祐二	(株)ビー・エム・エル
〃	馬場 直樹	(株)保健科学研究所
〃	大西 彰	(株)四国中検
〃	高司 明彦	(株)ファルコバイオシステムズ
〃	荒木 年夫	(株)大阪血清微生物研究所
〃	渡部 隆紀	(株)福山臨床検査センター
〃	藤井 謙吾	(株)シー・アール・シー

R5.3.31 現在（敬称略）

[BCP（事業継続計画）検討委員会ワーキンググループ]

役 職	氏 名	所 属
委 員	鈴木 信之	(株)エスアールエル
〃	鈴木 隆雄	(株)エスアールエル
〃	松尾 義博	(株)LSIメディエンス
〃	村上 和生	(株)江東微生物研究所
〃	山下 祐二	(株)ビー・エム・エル
〃	高司 明彦	(株)ファルコバイオシステムズ

R5.3.31 現在（敬称略）

③ 開催状況

[BCP（事業継続計画）検討委員会ワーキンググループ]

回	開催年月日	審 議 事 項	備 考
第1回	令和4年6月22日	①検査項目情報纏め表に基づくデータベース化の課題等検討について ②今後の進め方について	平均出席率 100%

第2回	令和4年8月4日	①検査項目情報纏め表に基づくデータベース化の課題等検討について ②今後の進め方について	
第3回	令和4年9月27日	①委員の選任について ②検査項目情報纏め表に基づくデータベース化の課題等検討について ③今後の進め方について	
第4回	令和4年11月4日	①検査項目情報纏め表に基づくデータベース化及び活用方法の検討について ②今後の進め方について	
第5回	令和4年12月8日	①検査項目情報纏め表に基づくデータベース化及び活用方法の検討について ②今後の進め方について	
第6回	令和5年1月20日	①検査項目情報纏め表に基づくデータベース化及び活用方法の検討について ②今後の進め方について	

令和4年度の各支部月間大会は、新型コロナウイルス感染症のためZoomによるオンライン大会として開催される支部等もあった。令和4年度の各支部月間大会開催状況は次の通り。

令和4年度 日衛協各支部臨床検査普及月間大会概要

支部	開催日・会場	主な内容
北海道	11月4日(金) Zoomによるオンライン開催 北海道札幌市	記念式典 永年勤続表彰及び日衛協認定士・認定証授与
東北	11月11日(金) テンザホテル・仙台ステーション 宮城県仙台市	学術研究発表会 記念式典 永年勤続者表彰
関東甲信越	11月24日(木) グランドアーク半蔵門 東京都千代田区	記念式典 永年勤続表彰及び日衛協認定士・認定証授与 記念講演:今を一生懸命生きる～当たり前のことではない人生～ 山田 恵里 氏 (東京2020オリンピック ソフトボール 日本代表主将・金メダリスト)
	11月28日(月) Zoomによるオンライン開催	関東甲信越支部学術研究発表会
北陸	11月15日(火) ホテル日航金沢 石川県金沢市	記念式典 (Zoomも併用した会場とオンラインのハイブリッド開催) 永年勤続者表彰 学術研究発表会 (Zoomも併用した会場とオンラインのハイブリッド開催)
中部	11月10日(木) ホテルパーク 岐阜県岐阜市	学術研究発表会 記念講演:薬物・アルコール依存症からの回復 遠山 香 氏 (岐阜ダルク) 記念式典 永年勤続表彰及び日衛協認定士・認定証授与
近畿	11月7日(月) Zoomによるオンライン開催 大阪府大阪市	活動報告会 幹事会
	12月3日(土)・4日(日) 神戸常磐大学 兵庫県神戸市	学術研究発表会 (Zoomも併用した会場とオンラインのハイブリッド開催) 一般演題 9演題
中国	11月11日(金) Zoomによるオンライン開催 広島県福山市	学術研究発表会 中国支部精度管理調査報告 記念式典 永年勤続者表彰
四国	11月18日(金) Zoomによるオンライン開催 香川県高松市	記念式典 永年勤続表彰 学術研究発表会
九州	11月18日(金) ホテルオークラ福岡 福岡県福岡市	学術研究発表会 記念式典 永年勤続者表彰

(3) 協会誌「ラボ」臨床検査普及月間特別号の発行

臨床検査普及月間の期間中に発行する協会誌「ラボ」11月号は、モデル、タレントのトリンドル玲奈さんに出演いただいた臨床検査普及映像を「PR動画をつくりました！臨床検査技師って？臨床検査センターって？」と題して紙面公開し、また第23回一般公募エッセイの入賞者を発表するなどして内容を充実させ、臨床検査普及月間特別号として発刊した。

(4) 臨床検査普及月間ポスターの製作

臨床検査及び衛生検査所（協会）の役割を一般の方々に正しく周知願うことを目的に、下記の臨床検査普及月間ポスターを製作し、医療機関へ配布、貼付して目的の達成を図った。



2 検査精度保証

(1) 臨床検査精度管理調査の実施

昭和 49 年から始まった日本衛生検査所協会主催の精度管理調査は、わが国の代表的な検査室間比較プログラムの 1 つとして認知されている。令和 4 年度（第 48 回）の本調査への参加は 256 施設であった。

検査結果の検査室間比較という調査目的から、参加する検査項目は自施設で日常的に検査をしている項目としている。外部委託している項目は除外する。また、測定結果は日常検体と同じ扱いで 1 回の測定で得た実測値報告としている。

なお、平成 28 年度の調査より、プール血清供出施設の負担軽減を図ることを目的として調査試料 1~3 をコントロール血清に変更している。また、今年度調査より「医療機関との患者血清に関する契約を遵守し、契約保存期間を満了した患者血清を収集して供出する」との基準を定め、会員施設に基準に沿ったプール血清の供出するよう要請した。本プール血清で作成した調査試料 4 は、調査前に事前測定して反応性など問題が無いことを確認した。

臨床化学は、一般化学 17 項目に酵素 8 項目と新鮮血液を用いた HbA1c を加えた 26 項目の調査を実施した。また、今年度の調査でもコントロール血清とヒトプール血清との反応性比較を目的として、総蛋白とアルブミンの 2 項目は参考調査として患者プール血清でも実施した。

免疫血清学は、CRP 定量、CEA、PSA、CA19-9、AFP、TSH、FT4、RF、フェリチンの 9 項目を実施した。

血液学は、新鮮血液で血球計算 5 項目と白血球百分率（好酸球、好塩基球、単球、異形リンパ球は参考調査）、及びインターネットを利用した血液像のフォトサーベイとバーチャルスライドサーベイにプロトロンビン時間測定を加えた 9 項目を調査した。また、参考調査として白血球百分率の実数回答調査を実施した。なお、HbA1c と血球計算、白血球百分率の 6 項目の調査については、平成 26 年度（第 40 回）から全国共通試料に 1 本化した新鮮血液にて実施している。11 月 7 日に新鮮血液調査試料を発送したが、令和元年に（株）ヤマト運輸が超速便を廃止したことにより、北海道・九州及び山口の一部施設には発送翌々日（11 月 9 日）の到着となった。

微生物学は、肺炎が疑われる患者の喀痰をスライドグラスに塗抹し、メタノール固定したものの染色性を評価した。分離培養・同定検査として下痢患者の便培養で検出された細菌として 3 菌種を混合したもの、また、感受性検査では、急性骨髄性白血病患者の血液から検出された *Pseudomonas aeruginosa* の抗菌薬に対する感受性検査を出題した。

昨年度に続き、新型コロナウイルス遺伝子検査の精度管理調査を実施し、71 施設が参加した。CIVID-19 の全遺伝子を α ウイルスの遺伝子に組み込んだ米国 SeraCare 社製の AccPlex™ SARS-CoV-2 Verification Panel を標準物質として使用とした。試料として陰性コントロールを含む 5 濃度の試料を各 200 μ l 配布した。

統計的分析は昨年と同様に（株）電算に依頼し、集計を行い、今回も調査結果の評価方法は、臨床化学、血液学、免疫血清学については新補正共通 CV と各分野の担当委員が決めた指定 CV を比較して、評価用 CV（コンセンサス CV）を設定し評価した。ただし、独立して評価する測定法群（peer group）の最小参加施設数を 5 としている。微生物学は、担当委員が総合的に評価した。

なお、報告遅延は、バーチャルスライドサーベイ 3 施設、微生物学が 1 施設あり、計 4 施設（重複なし）であった。

- 1) 試料発送日 令和4年11月7日(月)
- 2) 回答形式 インターネット入力形式
- 3) 回答締切日 令和4年11月21日(月)まで

4) 実施項目

○臨床化学

【一般化学】

- ①ナトリウム、②カリウム、③クロール、④総カルシウム、⑤無機リン、⑥総蛋白
 ⑦アルブミン、⑧総ビリルビン、⑨尿素窒素、⑩クレアチニン、⑪尿酸
 ⑫ブドウ糖、⑬総コレステロール、⑭中性脂肪、⑮HDLコレステロール
 ⑯LDLコレステロール、⑰血清鉄、⑱HbA1c

【酵素】

- ⑲AST、⑳ALT、㉑アルカリ性ホスファターゼ(ALP)、㉒LD、㉓γ-GT
 ㉔CK、㉕コリンエステラーゼ、㉖アミラーゼ

(※下記項目は患者プール血清による参考調査も実施)

- ⑥総蛋白、⑦アルブミン

○免疫血清学

- ㉗CRP、㉘CEA、㉙PSA、㉚CA19-9、㉛AFP、㉜TSH、㉝FT4、㉞フェリチン、㉟RF

○血液学

- ㊱白血球数(WBC)、㊲赤血球数(RBC)、㊳ヘモグロビン(Hgb)
 ㊴ヘマトクリット(Hct)、㊵血小板数(PLT)
 ㊶白血球百分率、㊷血液像(インターネットフォトサーベイ)
 ㊸血液像(バーチャルスライドサーベイ)、㊹プロトロンビン時間測定
 ※㊶白血球百分率の好酸球、好塩基球、単球、異形リンパ球、実数報告は参考調査

○微生物学

- ㊺塗抹染色、㊻細菌同定、㊼抗菌薬感受性

○新型コロナウイルス遺伝子検査

- ㊽新型コロナウイルス遺伝子検査

5) 配布試料

- ①臨床化学 試料1~7...凍結血清、試料13...全血液
 ②免疫血清学 試料1~3...凍結血清、試料7...凍結血清
 試料8~11...凍結乾燥血清、試料12...凍結血清
 ③血液学 試料13...全血液、写真14~19...日衛協ホームページ
 試料20...CD-ROM、試料21~22...凍結乾燥血漿
 ④微生物学 試料24...スライドグラス(2枚)、試料25~26...凍結乾燥品
 ⑤新型コロナウイルス遺伝子検査 試料27~30...液状

6) 参加状況

	臨床化学・血液学・ 免疫血清学	微生物学	新型コロナウイルス 遺伝子検査
項目別 参加施設数	233	60	71
総参加施設数	256		

(2) 令和3年度（第47回）臨床検査精度管理調査結果検討会の実施

本会は、新型コロナウイルス感染症対策のため、ウェブ会議システム Zoom を使用した完全ウェブ方式で開催し、今後の衛生検査所の精度管理の向上に努めた。

I. 開催日

令和4年6月10日（金）

一般社団法人日本衛生検査所協会会議室

〒112-0004 東京都文京区後楽 2-3-28 K. I. S 飯田橋 2階

II. 内 容

1. 調査結果について

- | | | |
|-----------|-----------------|----------|
| (1) 総 評 | 昭和大学 | 高木 康 先生 |
| (2) 調査の概要 | 精度管理委員会 事務局 | 小島 卓 委員 |
| (3) 臨床化学 | 昭和大学 | 高木 康 先生 |
| (4) 血液学 | 慶應義塾大学 | 三ツ橋雄之 先生 |
| (5) 免疫血清学 | 自治医科大学 | 山田 俊幸 先生 |
| (6) 微生物学 | 鹿島病院感染症診療支援センター | 菅野 治重 先生 |

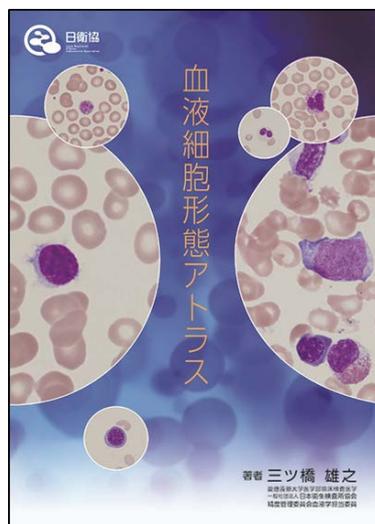
2. 特別講演会

「新型コロナウイルス対策の検証」

菅野 治重 先生（鹿島病院感染症診療支援センター）

(3) 血液細胞形態アトラスの活用

平成 29 年に会員衛生検査所の判読技術の向上と標準化に資することを目的に、当協会の精度管理委員会血液学担当委員で慶應義塾大学医学部臨床検査医学の三ツ橋雄之先生に執筆頂き発刊した本書を、生涯学習通信講座受講生等に無償配布する等して引き続き活用した。



3 教育・研修

(1) 第28回学術研究発表会全国大会

会員衛生検査所の精度の向上と学術技術の発展を目的として、学術研究発表会全国大会を開催した。今回も新型コロナウイルス感染症対策として、Zoomによる完全ウェブ方式での開催となった。第28回目を迎えた同大会では、各支部から推薦された17演題が、日頃の研究、研鑽の成果として発表された。

実施日時：令和4年7月14日（木）13時

開催方法：Zoomによる完全ウェブ方式

一般社団法人日本衛生検査所協会会議室1及びZoomをつないだ遠隔地

プログラム

I. 開 会 挨拶

学術委員会 委員長 近 本 陽 一（福山臨床検査センター）

II. 演 題 発 表

臨床化学

座 長 竹 並 健（エスアールエル）

1. アンモニア除蛋白液が薬物・生化学検査に及ぼす影響について

内野恵美・川口寛和・姫野美保・西川悦司

（ファルコバイオシステムズ）

2. 「血中アンモニア」の採血後の経時的変化に関する検討

牧裕二・新川絵理・津田直己・上部太・嶋弘隆

（キューリン）

臨床化学・血液学

座 長 矢 島 佑 一（久留米臨床検査センター）

3. 甲状腺刺激ホルモン検査の国際臨床化学連合（IFCC）対応法への変更

TSH 測定 の IFCC のハーモナイゼーション対応

岡田佳一・小林卓真・竹並健・辻大介

（エスアールエル）

4. HbA1c 測定における溶血の影響及び採血管に関する検討

福原直紀・西馬場政美・辻芳彦

（クリニカルパソロジーラボラトリー）

微生物学

座 長 杉 田 宏 充（武蔵臨床検査所）

5. 新規開発 one-step real-time RT-PCR 試薬の性能評価

羽鳥暢晃・鈴木孝一朗・朴貞玉・高橋美恵・川崎淳

（阪大微生物病研究会）

名倉由起子・柳原格

（大阪母子医療センター）

保川清

（京都大学）

藤原伸介

（関西学院大学）

6. SARS-CoV-2 IgG II Quant 抗体検査用試薬の妥当性確認
川村 修 (盛岡臨床検査センター)

座長 神谷 厚 (札幌臨床検査センター)

7. 全自動遺伝子解析装置 GENECUBE (SARS-CoV-2) の基礎的検討
石倉由衣・樋渡恒憲・真柴新一・久川聡 (保健科学研究所)
8. 新型コロナウイルス (SARS-CoV-2) 検出における核酸検出法と抗原定量検査の比較評価
五島慎也・菊池重寿・尾形亜紀子・鈴木友紀・野口健一 (江東微生物研究所)

座長 花川 準司 (四国中検)

9. 新潟県下で実施した β -ラクタマーゼ産生菌の実態調査
前山佳彦・中村伸明・眞水麻佳・瀬高優・古俣竜一郎・涌井直樹 (江東微生物研究所 新潟支所)
大塚正之・東出正人 (江東微生物研究所 中央研究所つくば)
10. 微生物感受性分析装置 DPS192Ark と自動菌液分注装置 InoculatorUni192 の検討
村上優太・金田聖司・林正捷・山部沙耶香・高橋伸・早崎俊成・奥原俊彦 (福山臨床検査センター)

免疫血清学

座長 荒木 年夫 (大阪血清微生物研究所)

11. 風疹ウイルス抗体測定試薬「ランピア ラテックス RUBELLA II」の基礎的検討
野村朋美・徳山竜彦・片山紀代美・土屋雅紀 (岡山医学検査センター)
12. COVID-19 患者における年齢層別重症化リスクスコアの検証
柳原優司・橋田駿・山崎愛沙実・松尾拓郎・富川誠・宮脇啓輔 (四国中検)

教育・寄生虫学・病理学

座長 奥原 俊彦 (福山臨床検査センター)

13. 臨床との連携によるファブリー病におけるマルベリー小体の検出に向けて
鯉沼千春・斎藤明里・本橋篤・小林祐華 (LSI メディエンス)
14. 当施設で経験した寄生虫検査の報告
白井綾音・廣重隆志・小野和哉・山崎涼子・有川正和 (ファルコバイオシステムズ)
15. 新社屋移転における病理検査室の作業環境の取り組み
小崎竜矢・松尾和彦・岡安里美・小林亜紗美・原まみえ・水無瀬昂・佐藤昌明 (札幌臨床検査センター)

精度保証・管理運営 (業務改善含む)

座長 成田 京子 (LSI メディエンス)

16. コミュニケーションアプリ「LINE」を活用した医療情報提供について
上西知幸・玉置達紀・中埜義信・広山晶一 (日本医学臨床検査研究所)
17. 職場を良くする部署横断的な小集団活動ーBoost活動ー
工藤慎之 (エスアールエル感染症マニュアル検査部感染症検査課)
森田弘・根本淳子・若林寿雄・山本英一・中村浩一郎・車千穂・佐野真理子
(エスアールエル検査統括部)

Ⅲ. 閉会挨拶

学術委員長 副委員長 杉田宏充 (武蔵臨床検査所)

(敬称略)

(2) 日本臨床検査専門学院（昭和 54 年開講）

令和 4 年度は、微生物学コースを 9 月から 12 月までの 3 ヶ月間、延べ 20 日間にわたり開講し、衛生検査所に勤務する臨床・衛生検査技師及び検査部門従事者の卒後教育を実施した。なお、今年度もウェブ会議システム Zoom による完全ウェブ方式で開催。全 20 回の受講申し込みの総計は、本受講生は 42 名、特別受講者（特定の講義だけを受講）は延べ 142 名であった。また、出席率 60%以上の受講生 40 名に修了証書が授与された。

第 47 期微生物学コースカリキュラム

No.	講義内容	講義日	講師	所属
1	抗菌薬の分類と感受性検査への採用	9月13日（火）	菅野 治重	公益財団法人鹿島病院 感染症診療支援センター
2	グラム染色法と標本の読み方	9月26日（月）	相原 雅典	公益財団法人鹿島病院検査科
3	微生物検査の内部精度管理	9月29日（木）	三澤 成毅	順天堂大学医学部附属 順天堂医院臨床検査部
4	腸内細菌科細菌のβ-ラクタム系 抗菌薬耐性因子と検査法	10月5日（水）	小松 方	天理医療大学医療学部
5	微生物検査結果の医師への適切な報告法	10月7日（金）	相原 雅典	公益財団法人鹿島病院検査科
6	新型コロナウイルス感染症診断 用核酸増幅検査薬と予防用ワクチン	10月11日（火）	井上 貴雄	国立医薬品食品衛生研究所 遺伝子医薬部
7	同定できない細菌が分離された 時の対応	10月17日（月）	大楠 清文	東京医科大学微生物分野
8	抗菌薬耐性菌の日本の現状	10月20日（木）	川上小夜子	国立感染症研究所薬剤耐性 研究センター
9	検体の採取法と保存・輸送法	10月25日（火）	静野 健一	千葉市立海浜病院臨床検査科
10	微生物検査室の安全対策	10月27日（木）	村田 正太	千葉大学医学部附属病院検査部
11	最近の性感染症	10月31日（月）	高橋 聡	札幌医科大学医学部医学科臨床医学 部門講座感染制御・臨床検査医学講座
12	結核・抗酸菌感染症の現状	11月7日（月）	門田 淳一	地方独立行政法人長崎市立病院機構 長崎みなとメディカルセンター
13	小児領域感染症 新しい呼吸器ウ イルス感染症の話題も含めて	11月9日（水）	石和田稔彦	千葉大学真菌医学研究 センター感染症制御分野
14	ウイルス性肝炎の現状	11月15日（火）	横須賀 収	松戸市病院事業管理局病院政策課
15	深在性真菌症の現状	11月17日（木）	亀井 克彦	千葉大学真菌医学研究 センター感染症制御分野
16	血液培養検査の臨床的意義と分 離菌の評価	11月30日（水）	菊池 賢	東京女子医科大学医学部 感染症科
17	最近の MRSA と VRE	12月2日（金）	池 康嘉	群馬大学大学院医学系研究科
18	検査センターで最低限行うべき 嫌気性菌検査	12月8日（木）	田中香お里	岐阜大学糖鎖生命コア研究所
19	検査センターで最低限行うべき 真菌検査	12月13日（火）	渡邊 哲	千葉大学真菌医学研究 センター臨床感染症分野
20	新型コロナウイルス感染症の臨 床像と感染対策	12月15日（木）	菅野 治重	公益財団法人鹿島病院 感染症診療支援センター

（敬称略）

(3) 生涯学習通信講座と資格認定について

令和4年度は第26期検査標準講座（生化学、免疫学、血液学、遺伝子関連検査コース、染色体検査コースの5コース）、第25期営業標準講座を開講し、第21回資格認定を実施した。

各講座の支部別受講者数及び認定士数は以下の通り。

令和4年（2022）年度・生涯学習通信講座 受講者数（支部別）

R5.3.31

支部		受講年度		小計	総計
		1996-2021	2022		
北海道	検査	120	1	121	210
	営業	89	0	89	
東北	検査	38	6	44	109
	営業	63	2	65	
関東 甲信越	検査	1,740	193	1,933	4,180
	営業	2,156	91	2,247	
北陸	検査	26	0	26	51
	営業	25	0	25	
中部	検査	51	4	55	103
	営業	47	1	48	
近畿	検査	294	9	303	829
	営業	512	14	526	
中国	検査	79	2	81	137
	営業	56	0	56	
四国	検査	25	0	25	35
	営業	10	0	10	
九州	検査	148	3	151	380
	営業	224	5	229	
全国	検査	2,521	240	2,761	6,034
	営業	3,182	91	3,273	

令和3年(2021)年度講座終了・第21回(2022年審査実施)

※一部年度以前の修了者を含む

日衛協 認定士数

R5. 3. 31

認定年度 支部	第1回～第20回 2002～2021年	第21回 2022年	合計 2002～2022年
北海道	132	1	133
東北	71	6	77
関東甲信越	3,049	217	3,266
北陸	3	0	3
中部	64	8	72
近畿	535	19	554
中国	99	1	100
四国	18	0	18
九州	226	7	233
全国	4,197	259	4,456

日衛協 認定士数(種別)

R5. 3. 31

認定年度 種別	第1回～第20回 2002～2021年	第21回 2022年	合計 2002～2022年
検査認定士	1,771	196	1,967
生化学的検査	(804)	(36)	(840)
免疫学的検査	(396)	(27)	(423)
血液学的検査	(571)	(56)	(627)
遺伝子関連検査	(0)	(58)	(58)
染色体関連検査	(0)	(19)	(19)
営業認定士	2,548	64	2,612
合計	4,319	260	4,579

※検査の括弧内は分野別内訳

4 広報活動

臨床検査の正しい認識を医療関係者や社会一般に広める活動の一環として、次の広報活動を行った。

(1) 協会誌「ラボ」を発行

令和4年度も、医療分野での最新動向、臨床検査関連の話題などを主体に毎月1号36,500部を計12号発行した。

令和4年度は、心不全などの病気と検査を解説する「暮らしとけんさ」、各支部会員の社員の方を紹介する「元気印集合！われらの仲間たち」、エッセイ受賞作品、歴史上の偉人を先進会の和田秀樹氏が診断する「日本史を動かした偉人と病の物語の「令和維新」、会員各社の社員の方の紹介「われらの仲間たち」、及び各支部の特色ある地域を紹介する「北から南から」などの記事を掲載した。

協会誌「ラボ」は、読者を一般の方も対象としているため、専門的になりがちな医療関連の情報や日衛協の方針などを読みやすく、分かりやすい表現となるよう編集している。



(2) 臨床検査普及映像の公開

国民に、検査の重要性や必要性を、衛生検査所の現場を通してより知っていただきたいという思いから、モデル・タレントのトリンドル玲奈さんに出演いただき、臨床検査普及映像を作成。日衛協公式 you tube チャンネルにて公開した。本映像は、臨床検査の大切さや仕事への思いをお伝えする映像となっている。また同映像の一場面を抜粋して臨床検査普及ポスターも作成。PR 動画へアクセスするための QR コードを記載した。



(3) 第23回一般公募エッセイ「検査がくれたもの」

本年度も「検査がくれたもの」をテーマにエッセイを広く一般から募集した。22回目を数える今回は132作品の応募があった。応募エッセイの中から、下記の通り最優秀賞、優秀賞、努力賞の8名を選考し、協会紙「ラボ」、及び当協会のホームページで紹介した。

募集期間 令和4年6月1日～8月20日

募集方法 公募ガイド、協会誌「ラボ」、日衛協ホームページに掲載

応募数 132品

各賞 最優秀賞1名、優秀賞2名、努力賞5名

第23回一般公募エッセイ「検査がくれたもの」選考結果

賞	筆者	タイトル
最優秀賞	山内 千晶	「今」をくれた検査
優秀賞	大西 賢	鼻の癌
優秀賞	服部日向子	背中を押してくれてありがとう
努力賞	鶴屋 健太	病気を糧にして生きていく
努力賞	佐久間淑江	三人の医師に感謝
努力賞	平野 幸	検便はいつもドキドキ、技師さんありがとう
努力賞	小松崎 潤	医師の言葉
努力賞	木内都緒子	検査の積み重ねに届け！「ありがとう！」

(敬称略)

(4) 医療フォーラム 21

令和4年度の医療フォーラム21は、今回から学術委員会が企画・立案し「臨床検査の標準化への対応～Part1 現状把握と問題点～」をテーマに開催した。なお、検討内容が多岐にわたるため、2回に分けて論点を絞って開催する。令和5年度に予定している2回目は「大規模災害への備えBCPへの対応」をサブテーマとする。

本会は、新型コロナウイルス感染症対策として傍聴者は募らずクローズ形式で開催した。また、その内容を纏めた冊子を作成し、会員、行政、及び関係団体等に配布予定である。

①開催時期 令和5年3月13日(月) 14:00～16:00

②場 所 一般社団法人日本衛生検査所協会会議室
〒112-0004 東京都文京区後楽2-3-28 K. I. S 飯田橋2階

③出席者

<座 長>

渡辺 清明氏(慶應義塾大学 名誉教授)

<シンポジスト>

畠 伸策氏(厚生労働省地域医療計画課医療関連サービス室 室長補佐)

日高 洋氏(一般社団法人日本臨床検査医学会 理事)

高木 康氏(公益社団法人日本臨床検査標準協議会 会長)

滝野 寿氏(一般社団法人日本臨床衛生検査技師会 専務理事)

望月 克彦氏(一般社団法人日本臨床検査薬協会様 専務理事)

奥原 俊彦氏(一般社団法人日本衛生検査所協会 学術委員会副委員長)

<進 行>

近藤 健介氏(一般社団法人日本衛生検査所協会 学術委員会担当副会長)

④開催方式 クローズ方式

5 日本衛生検査所協会表彰

令和4年度日本衛生検査所協会表彰は、新型コロナウイルス感染症対策により令和4年度定時総会が規模を大幅に縮小して開催されたため、表彰者に賞状及び記念品が直接送付された。

令和4年度 日本衛生検査所協会表彰者

表彰種類	氏名	施設名	所属支部
優功賞	杉田 宏充	(株)武蔵臨床検査所	関東 甲信越
優功賞	竹村 久仁彦	(一財)東京保健会 病体生理研究所	関東 甲信越
優功賞	増元 秀之	(株)四国中検	四国
優功賞	久米 大輔	(株)キューリン	九州
功労賞	楠 智	(株)LSIメディエンス	関東 甲信越
功労賞	三井 義文	(株)北信臨床	関東 甲信越
功労賞	市村 剛	(株)エスアールエル	関東 甲信越
功労賞	別府 弘規	(株)エスアールエル	関東 甲信越
功労賞	山本 昌司	(株)ビー・エム・エル	関東 甲信越
功労賞	國保 剛孝	(一財)東京保健会 病体生理研究所	関東 甲信越
功労賞	片桐 宏至	(株)ビー・エム・エル	北陸
功労賞	小林 延行	日本医学(株)	近畿
功労賞	横見 孝夫	(株)岡山医学検査センター	中国
功労賞	奥 弘文	(株)四国中検	四国
功労賞	大久保 和裕	(株)四国中検	四国
功労賞	森田 崇一郎	(有)久留米臨床検査センター	九州
功労賞	中島 修治	(有)久留米臨床検査センター	九州
功労賞	守口 浩二	(株)QOL セントラルラボラトリーズ	九州

(敬称略) ※北海道、中部、四国支部は該当者なし

6 日衛協アンケート調査報告

会員衛生検査所等を対象に下記の各種アンケート調査を実施した。

◎ 理事会

- ・令和4年度診療報酬改定に関するアンケート調査 (令和2年9月実施)
- ・令和4年度診療報酬改定に関する増点要望項目の検査コスト調査 (令和2年11月実施)

◎ 学術委員会

- ・日本臨床検査専門学院第47期微生物学コースアンケート (令和4年12月実施)

7 行政、他団体との連携等

(1) 臨床検査関係団体等との連携

令和4年度に本協会から関係団体に次の役員、委員等を推薦し、臨床検査関係団体との連携を図った。

団体名	役職等	令和4年度
臨床検査振興協議会	特別顧問	伊達忠一名誉会長
	理事	久川芳三会長
		東俊一副会長
		真柴新一理事
	監事	近藤功治専務理事
	医療政策委員会 診療報酬改定小委員会	川崎邦之氏(日衛協)
		萩原三千男氏(SRL)
	診療報酬制度小委員会	川崎邦之氏(日衛協)
	在宅医療における臨床検査小委員会	小林直哉事務局長
	将来ビジョン委員会	久川聡理事
	遺伝子関連検査に関する小委員会	真柴新一理事
		堤正好理事
	大規模災害対策委員会	近藤功治専務理事
		小林直哉事務局長
感染症対策小委員会	堤正好理事	
	永井邦子氏(SRL)	
広報委員会	橋本充常任理事	
日本臨床衛生検査技師会	臨床検査技師教育検討委員会	川崎邦之氏(日衛協)
	IFBLS学会国内委員会	川崎邦之氏(日衛協)
	病理FFPE材料を前提とした固定液標準化検討WG	堤正好理事
日本臨床検査標準協議会 (JCCLS)	理事	金村茂氏
		小林直哉事務局長
	監事	近藤功治専務理事
	基準範囲共用化委員会	奥原俊彦氏(福山臨床)
	ISO/TC212国内検討委員会(団体委員)	金村茂氏
	WG-1(臨床検査室における品質と能力)	矢島保良氏(BML)
	WG-5(検査室のバイオリスクマネジメント)	市村禎宏氏(BML)
	遺伝子関連検査標準化委員会	堤正好理事
ISO/TC272(法科学)国内審議委員会	堤正好理事	
日本適合性認定協会(JAB)	臨床検査室技術委員会	奥原俊彦氏(福山臨床)
(一財)医療関連サービス振興会	理事	久川芳三会長
	評議員	近藤功治専務理事
	運営委員会	近藤功治専務理事
	倫理綱領委員会	小林直哉事務局長
	評価認定制度委員会	近藤功治専務理事
(一財)医療関連サービス振興会	衛生検査所専門部会	久川聡理事
		小林直哉事務局長
	調査指導中央委員会副委員長	久川聡理事
	医療関連サービスマーク調査指導員	各支部から26名

(公社)日本医師会	臨床検査精度管理検討委員会	金村茂氏
結核感染診断研究会	精度評価委員会	奥原俊彦氏(福山臨床)
日本医療機能評価機構	評議員	久川聡理事
厚生労働省	令和4年度厚生労働科学研究 (「遺伝子関連・染色体検査」の精度管理のための研究)	糸賀栄氏(かずさDNA研究所) 堤正好理事
	難治領域における検体検査の精度管理体制の整備に資する研究	堤正好理事
	NIPT等の出生前検査に関する専門委員会	堤正好理事
	全ゲノム解析等の推進に関する専門委員会	小見和也氏(SRL)
経済産業省	海外渡航者新型コロナウイルス検査センター運営委員会	久川聡理事
東京都	衛生検査所精度管理検討委員会	小島卓氏(SRL)
		久川聡理事
	東京都感染症医療体制協議会 新型コロナウイルス検査体制部会	久川聡理事
日本検査血液学会	凝固検査標準化ワーキンググループ	奥原俊彦氏(福山臨床)
		関根康司氏(江東微研)
医療情報システム開発センター (MEDIS-DC)	臨床検査項目標準マスター運用協議会	小林直哉事務局長
		馬場直樹氏(保健科学)
		柴田修也氏(江東微研)
		村上和生氏(江東微研)
	臨床検査マスター普及に向けた調査・研究	村上和生氏(江東微研)
	JLACコード付番委員会	小林直哉事務局長
柴田修也氏(江東微研)		
村上和生氏(江東微研)		
日本医学会	出生前検査認証制度等運営委員会	堤正好理事

(2) サービスマーク認定事業への参画

衛生検査所業務サービスマーク認定状況

(令和5年2月1日現在)

1 認定施設数

第80回認定	R3. 6. 1	(新規)	0	(うち日衛協会員)	0
		(更新)	20	(うち日衛協会員)	16
第81回認定	R3.10. 1	(新規)	0	(うち日衛協会員)	0
		(更新)	21	(うち日衛協会員)	18
第82回認定	R4. 2. 1	(新規)	1	(うち日衛協会員)	0
		(更新)	19	(うち日衛協会員)	15
第83回認定	R4. 6. 1	(新規)	0	(うち日衛協会員)	0
		(更新)	15	(うち日衛協会員)	12
第84回認定	R4.10. 1	(新規)	0	(うち日衛協会員)	0
		(更新)	10	(うち日衛協会員)	6
第85回認定	R5. 2. 1	(新規)	0	(うち日衛協会員)	0
		(更新)	23	(うち日衛協会員)	21
合 計			109	(うち日衛協会員)	88

2 業務数及び業務別認定施設数

(業務数別)

	総数	7業務	6業務	5業務	4業務	3業務	2業務	1業務	血清分離*
総数	109	30	17	13	13	16	4	16	0
日衛協会員	88	25	16	11	13	12	3	8	0
会員率	80.7%	83%	94%	85%	100%	75%	75%	50%	0%

* 1業務のうち血清分離のみ

(業務別)

	微生物	血清	血液	病理	寄生虫	生化学	免疫	尿・糞便	遺伝・染色	血清分離	
総数	109	65	51	80	53	40	81	34	30	39	0
日衛協会員	88	57	46	70	41	36	71	28	26	29	0
会員率	80.7%	88%	90%	88%	77%	90%	88%	82%	87%	74%	0%

衛生検査所業務医療関連サービスマーク認定数
(都道府県別)

(令和5年2月1日現在)

都道府県	認定施設数		登録衛生 検査所数	備考	都道府県	認定施設数		登録衛生 検査所数	備考
	全数	日衛協 会員				全数	日衛協 会員		
北海道	4	3	61		滋賀県	2	2	10	
青森県	0	0	12		京都府	6	5	29	
岩手県	3	2	10		大阪府	10	8	55	
宮城県	2	2	17		兵庫県	3	2	30	
秋田県	0	0	8		奈良県	2	2	8	
山形県	0	0	12		和歌山県	1	1	10	
福島県	1	1	17		鳥取県	0	0	7	
茨城県	2	1	16		島根県	0	0	6	
栃木県	1	1	17		岡山県	2	1	10	
群馬県	1	1	15		広島県	1	1	29	
埼玉県	7	5	25		山口県	1	1	17	
千葉県	4	3	31		徳島県	0	0	9	
東京都	13	11	120		香川県	1	1	13	
神奈川県	6	4	46		愛媛県	1	1	8	
新潟県	1	1	24		高知県	0	0	6	
富山県	0	0	4		福岡県	6	6	49	
石川県	2	2	14		佐賀県	0	0	4	
福井県	1	1	5		長崎県	1	1	20	
山梨県	1	1	11		熊本県	0	0	23	
長野県	3	3	23		大分県	0	0	10	
岐阜県	5	3	13		宮崎県	0	0	10	
静岡県	5	5	35		鹿児島県	1	1	22	
愛知県	5	2	46		沖縄県	1	1	15	
三重県	3	2	11		合計	109	88	993	

(注) 登録衛生検査所数は令和3年1月1日現在である。

8 策定・公表したガイドライン及び文書

衛生検査所における確実な業務遂行のため、次のガイドライン及び文書を策定・公表し、周知を図った。

- 1 第 11 回遺伝子・染色体検査アンケート調査報告書 (令和 4 年 4 月)

日衛協では、平成 13 年 4 月に策定・公表した「遺伝学的検査受託に関する倫理指針」の普及活動と並行して、遺伝子検査が適切に実施されているかを調査するため、日衛協会員への「遺伝子・染色体検査実施アンケート調査」を継続して実施し、状況把握に努めてきた。第 11 回の同アンケート調査は、令和 4 年 9 月に実施し、令和 4 年 4 月にホームページで公表した。
- 2 検査前工程の標準化ガイドライン第 2 版 (令和 4 年 6 月)

検査前工程の検体受領・搬送、受付及び仕分、血清分離作業などの標準化を目的とした「検査前工程の標準化ガイドラインー生化学、血液学、血清学的検査ー」を 2013 年に公開したが、策定から約 10 年を経過したため、内容を精査し改訂した第 2 版を公開した。本ガイドラインは、医療機関などから生化学、血液学、血清学的検査を受託している衛生検査所の業務に特化した内容となっている。
- 3 精度管理運用のガイドライン第 3 版 (令和 4 年 6 月)

衛生検査所等において行われる検体検査の精度確保に関する基準の明確化等を目的として、平成 29 (2017) 年 6 月に医療法等の一部を改正する法律が成立。平成 30 年本年 12 月 1 日には、「医療法等の一部を改正する法律の一部の施行に伴う厚生労働省関係省令の整備に関する省令」が施行されたことを踏まえ、日衛協学術委員会では、2018 年 10 月に「精度管理運用のガイドライン」を公開。そして 2019 年 11 月には、参考資料等が更新されたため、第 2 版を公開。約 3 年を経過したため、内容を精査し改訂した第 3 版として改訂、公開した。
- 4 遺伝学的検査受託に関する倫理指針 (令和 4 年 9 月)

平成 13 年に、「遺伝学的検査受託に関する倫理指針」を策定し公開しているが、日本医学会「医療における遺伝学的検査・診断に関するガイドライン」が令和 4 年 3 月に改定されたことを受けて、本指針を改定し公開した。

http://www.jrcla.or.jp/mbr/minfo02/minfo02_r020901-1.html
- 5 医療機関に対する窮状文書 (令和 5 年 3 月)

医療機関に対して、臨床検査の諸資材コスト高騰等による衛生検査所の窮状を訴える文書を作成し、公開した。本文書の公開は、理事会で承認され、また、公正取引委員会の確認を受けた文書のため一切の改変が禁止されている。また本文書を利用しての各社の活動につきましては、同時に公開された「窮状文書留意事項」に記載されている事項の厳守を求めている。

①

第 11 回遺伝子関連検査・染色体検査 アンケート調査報告書

令和 4 年 4 月

一般社団法人日本衛生検査所協会
遺伝子関連検査受託倫理審査委員会

第 11 回 遺伝子・染色体検査アンケート調査報告書

はじめに

一般社団法人日本衛生検査所協会(以下「日衛協」という。)では「遺伝学的検査受託に関する倫理指針」(以下「日衛協倫理指針」という。)を策定し、平成13年4月に公表し、その後継続して改定を行ってきた。「日衛協倫理指針」は、遺伝子関連検査・染色体検査の受託に関わる日衛協に加盟する企業の倫理姿勢を明確にしたことにより、遺伝子関連検査・染色体検査の適正な受託方針を示したものと考えている。

なお、「日衛協倫理指針」は近年の遺伝子関連検査を取巻く環境の変化を考慮し、平成28年11月24日付けで一部改正版を公表したところである。本指針の適用範囲は、現在実施されている遺伝子関連検査のうち、ヒト生殖細胞系列の遺伝子検査である「遺伝学的検査」を対象としており、衛生検査所に本指針の遵守を求めるものである。

詳細については以下の URL にて指針の全文を閲覧できるので参照されたい。

(<http://www.jrcla.or.jp/info/info/281207.pdf>)

日衛協では、「日衛協倫理指針」の普及活動と並行し、遺伝子関連検査が適切に実施されているかを調査するために、日衛協会員への「遺伝子関連検査・染色体検査実施アンケート調査」を、継続して実施し、状況把握に努めてきた*。

また、本アンケートは、昨今著しい進歩を遂げたヒトゲノム・遺伝子解析研究の分野における研究成果がゲノム医療の分野で、具体的には遺伝子関連検査・染色体検査として、いかに臨床の場で活かされているのか、その実態把握も目的としている。

第11回遺伝子関連検査・染色体検査アンケート調査は、令和3年9月に実施した。調査期間は、令和2年4月1日から令和3年年3月31日までとして、前回と同様に「日衛協倫理指針」の対象となる遺伝学的検査(ヒト生殖細胞系列の遺伝子検査)と、「日衛協倫理指針」の対象外となる遺伝子関連検査・染色体検査に区分し、分野別の集計を行った。

この度、遺伝子検査件数に関する集計結果をまとめ、考察を加えてここに報告する。

②

検査前工程の標準化ガイドライン

－ 生化学, 血液学, 血清学的検査 －

第2版

一般社団法人日本衛生検査所協会

初版発行：2013年4月1日 改訂：2022年6月1日 版数：2

一般社団法人日本衛生検査所協会

目次

改訂履歴	2
序文	3
1 適用範囲	4
2 用語及び定義	4
3 検査前工程の管理	6
3.1 医療機関からの検査の受託	6
3.2 検体の受領	8
3.3 検体の搬送	9
3.4 検体の受付及び仕分	10
3.5 衛生検査所における血清分離	11
3.6 検査の外部委託	12
4 安全衛生	13
4.1 感染対策	13
4.2 作業場所の安全性確保	14
4.3 感染性廃棄物の処理	14
5 個人情報保護	14
5.1 個人情報の特定	14
5.2 守秘義務と安全管理措置	14
5.3 個人情報漏えいの配慮	15
5.4 安全な廃棄	15
5.5 個人情報漏えい時の対応	15
6 教育・訓練	15
6.1 教育・訓練プログラム	15
6.2 力量評価	16
7 記録	16
8 医療倫理	16
9 参考文献	17
附属書 検査前工程のフロー	18

③

精度管理運用のガイドライン

第3版

一般社団法人日本衛生検査所協会

目次

改訂履歴	2
1. 内部精度管理に関すること	3
1.1 標準物質	3
1.2 トレーサビリティ	3
1.3 測定された量の値の測定不確かさ	4
1.4 管理試料	4
1.5 試薬	4
1.6 精度管理物質	5
1.7 精度管理データ	5
1.8 検査機器等の保守管理	6
1.9 キャリブレーション	6
2. 精度管理向上に関すること	6
2.1 一般的事項	7
2.2 微生物学的検査（細菌培養同定検査、薬剤感受性検査）について	8
2.3 免疫学的検査（免疫血清学検査、免疫血液学検査）について	9
2.4 血液学的検査（血球算定・血液細胞形態検査、血栓・止血関連検査、細胞性免疫 検査）について	10
2.5 病理学的検査（病理組織検査、免疫組織化学検査、細胞検査、分子病理学的 検査）について	12
2.6 生化学的検査（生化学検査、免疫化学検査、血中薬物濃度検査）について ..	13
2.7 尿・糞便等一般検査、寄生虫検査について	14
2.8 遺伝子関連検査・染色体検査（病原体核酸検査、体細胞遺伝子検査、生殖細胞 系遺伝子検査、染色体検査）について	15
2.9 内部精度管理に関するデータ異常の発見と対応について（参考文献）	17
3. 外部精度管理に関すること	20
4. 是正処置に関すること	20
5. 内部監査に関すること	20
6. 参考文書	21
附属書 (A)、(B)、(C)、(D)	22

「遺伝学的検査受託に関する倫理指針」

一般社団法人日本衛生検査所協会
遺伝子関連検査受託倫理審査委員会
平成13年4月10日 策定

(目次)

I. 前文	・・・p3
II. 基本的考え方	・・・p6
1. 基本方針	
2. 本指針の適用範囲	
III. 遺伝学的検査受託における遵守事項	・・・p10
IV. 守秘義務	・・・p12
V. 見直し	・・・p12
VI. 要望	・・・p12
VII. 注	・・・p13
VIII. 用語の定義	・・・p22
IX. 参考資料	・・・p24
X. 遺伝子関連検査受託倫理審査委員会委員名簿	・・・p35

*改定履歴

平成13年4月10日 策定
平成16年9月16日 改正
平成19年4月1日 改正
平成23年10月1日 改正
平成26年11月27日 改正
平成28年3月24日 改正
平成28年11月24日 一部改正
令和4年9月1日 改定

医療機関の皆様へ

臨床検査の諸資材コスト高騰等のご理解とご協力をお願い

平素は、当協会会員の衛生検査所をご利用いただき、厚く御礼申し上げます。

さて、改めて申し上げるまでもなく、会員衛生検査所は、検体検査が患者の病気の診断、治療、経過観察に欠かすことのできない重要な位置付けであることを自覚し、日夜、検査精度の向上、検査結果の迅速な報告等に取り組んでいるところであります。

一方で、検査の実施・報告においては、コスト変動による影響もあり、コスト増に対しては内部で吸収すべく会員各社努力しているところではありますが、ここ1、2年における、検査試薬等の諸資材の高騰、電力料金の値上げに伴う検査コストの上昇、ガソリン価格の高騰による日々の集配コストの上昇、さらには常時不足状態にある従業員の確保あるいは定着率を高める上での人件費の引上げなど、様々なコスト上昇に見舞われており、これらのコスト増に対し自助努力のみでは限界があり、各社対応に苦慮しているところであります。

もとよりコスト高騰等への対応については、会員各社が各々の判断の下に対処すべきものであり、また、当協会として関与するところではありませんが、諸資材コストの高騰等の事情は会員各社共通の問題でもありますので、何卒事情をご賢察いただき、会員に対し格段のご配慮を賜りますようお願い申し上げます。

令和5年3月

一般社団法人日本衛生検査所協会
会長



日衛協会員 各位

窮状文書使用に際しての留意事項

- 1 本窮状文書は、医療機関に対し、諸資材コスト高騰等、衛生検査業界の置かれている状況を理解してもらうために作成したものであり、個々の会員が、この文書を持参し、医療機関に諸資材コスト高騰等について理解を求めることは構いません。
- 2 諸資材コスト高騰等により、コストを反映した適正な検査料金の収受に向けて、検査料金の改善・是正に取り組むこと自体は健全な経営の維持の観点から望ましいことですが、検査料金の改善・是正、すなわち検査料金の改定を実施するかどうかは当然のことながら個々の会員が各々判断すべきものであり、検査料金の改定に関して会員同士で情報交換したり、話し合うことは独占禁止法上問題になり得るものです。また、日衛協の支部などにおいて、同様の情報交換や話し合いを行うことも問題になり得るものです。
- 3 ついては、この文書を医療機関に持参し、検査料金の改定交渉を行うに際しては、医療機関に対し、カルテルなどの独占禁止法上の疑念や、改定に関し日衛協が関与しているかのような疑いを招くことがないよう、説明や発言に十分注意するようお願いいたします。
なお、この文書の使用についても、使用するか否かは個々の会員の任意の判断となり、日衛協としてこの文書の使用を求めるものではありません。

NG! 絶対に言ってはいけません。

独占禁止法上疑念を招くような説明・発言の例

- ① 諸資材コスト高騰等につき、協会(日衛協)として、検査料金の改善・是正などに取り組むことになったので、説明(お願い)に上がった。
- ② 諸資材コスト高騰等につき、協会(日衛協)から、検査料金の改善・是正に取り組むよう指導を受けたため、説明(お願い)に上がった。
- ③ 会員各社、この窮状文書を持参し、検査料金の改善・是正にお願いすることになった。
- ④ どの検査会社も、検査料金の改善・是正に向けてお願いに上がっている。

収支計算書

令和4年4月1日から令和5年3月31日まで

科 目	予 算 額	決 算 額	差 異	備 考
	円	円	円	差異の説明
[事業活動収支の部]				収入の部は(決算-予算)
I. 事業活動収入				
1. 入会金収入	400,000	800,000	400,000	
入 会 金	400,000	800,000	400,000	
2. 会費収入	139,930,000	139,810,000	△ 120,000	
正 会 員 会 費	135,330,000	135,260,000	△ 70,000	基本:388、施設:705、従事者:17,532
賛 助 会 員 会 費	4,600,000	4,550,000	△ 50,000	
3. 事業収入	60,658,000	62,859,940	2,201,940	
精 度 管 理 調 査 参 加 料	14,410,000	14,949,950	539,950	参加費 14,768千円 アトラス 181千円
広 告 料	2,800,000	3,160,000	360,000	
臨 床 検 査 専 門 学 院 受 講 料	1,300,000	2,535,000	1,235,000	微生物コース 本受講42名、特別受講145名
出 版 印 刷 物 販 売 料	28,693,000	27,673,990	△ 1,019,010	ラボ購読料、月間ポスター販売他
生 涯 学 習 通 信 講 座 受 講 料	12,230,000	13,341,000	1,111,000	331名(複数受講24名含)
医 療 関 連 サ ー ビ ス マ ー ク 事 務 代 行 料	1,225,000	1,200,000	△ 25,000	48件
4. 雑収入	14,375,000	5,891,189	△ 8,483,811	
受 取 利 息	5,000	3,803	△ 1,197	
雑 収 入	14,370,000	5,887,386	△ 8,482,614	事務所費、業務支援料他
事 業 活 動 収 入 計	215,363,000	209,361,129	△ 6,001,871	

科 目	予 算 額	決 算 額	差 異	備 考
	円	円	円	差異の説明
II. 事業活動支出				支出の部は(予算-決算)
1. 事業費支出	102,633,000	92,736,274	9,896,726	
臨床検査月間費	1,456,000	1,078,973	377,027	会場費、永年勤続表彰状他
学術・研修会費	1,760,000	99,603	1,660,397	
精度管理調査運営費	15,000,000	13,571,975	1,428,025	
臨床検査専門学院運営費	900,000	888,960	11,040	講師謝金他
印刷製本費	34,195,000	36,475,554	△ 2,280,554	ラボ発行費、月間ポスター作成、 広報事業(映像、コラボコミック)他
生涯学習通信講座運営費	6,037,000	5,623,768	413,232	
支部交付金	20,440,000	20,440,000	0	
関係団体協賛費	3,450,000	3,550,000	△ 100,000	臨床検査振興協会他年会費 ISO/TC212/WG1東京会議協賛金(JCCLS)
委員会費	4,625,000	2,388,220	2,236,780	各委員会旅費交通費他
医療フォーラム21運営費	2,600,000	1,244,913	1,355,087	シポジスト謝金、交通費、冊子作成昨年度分 今年度冊子作成次年度へ
サービスマーク推進費	40,000	6,644	33,356	申請書類発送費
協会表彰費	1,340,000	459,382	880,618	優功:4名、功労:14名、授与式なし
公募エッセイ表彰費	350,000	295,195	54,805	エッセイ副賞、広告掲載料他
組織強化費	2,090,000	207,954	1,882,046	
システム関連費	5,905,000	5,072,889	832,111	ホームページ改訂、Web会議関連費用他
調査・研究費	850,000	0	850,000	
雑費	1,595,000	1,332,244	262,756	事務所清掃費他
2. 管理費支出	65,821,000	62,243,695	3,577,305	
人件費	35,535,000	31,902,410	3,632,590	
消耗品費	200,000	9,755	190,245	
事務用品費	100,000	73,946	26,054	
印刷費	1,500,000	917,260	582,740	総会資料、学術抄録なし
図書費	85,000	70,677	14,323	
通信運搬費	941,000	815,963	125,037	
事務所費	21,500,000	21,455,280	44,720	
水道光熱費	1,500,000	1,459,702	40,298	
租税公課	2,170,000	3,355,700	△ 1,185,700	消費税、法人都民税、固定資産税
近地旅費	200,000	93,002	106,998	
雑費	2,090,000	2,090,000	0	弁護士、会計士顧問料
3. 会議費支出	14,410,000	1,779,219	12,630,781	
総会費	8,500,000	812,760	7,687,240	会場キャンセル料
賀詞交歓会開催費	2,000,000	0	2,000,000	開催中止
会議費	400,000	0	400,000	外部会場での開催なし
旅費交通費	3,510,000	966,459	2,543,541	理事会、常任理事会他交通費
事業活動支出計	182,864,000	156,759,188	26,104,812	
[事業活動収支差額]	32,499,000	52,601,941	20,102,941	

科 目	予 算 額	決 算 額	差 異	備 考
[投資活動収支の部]	円	円	円	差異の説明 収入の部は決算マイナス予算 支出の部は予算マイナス決算
I. 投資活動収入				
投 資 活 動 収 入 計	0	0	0	
II. 投資活動支出				
1. 特定資産取得支出	7,000,000	7,000,025	△ 25	
退職給付引当預金支出	4,000,000	4,000,000	0	
周年行事積立預金支出	3,000,000	3,000,025	△ 25	
2. 固定資産取得支出	2,100,000	1,614,800	485,200	
什器備品購入支出	2,100,000	1,614,800	485,200	サーバー入替
投 資 活 動 支 出 計	9,100,000	8,614,825	485,175	
[投資活動収支差額]	△ 9,100,000	△ 8,614,825	485,175	
[予備費支出]	1,000,000	0	1,000,000	
当期収支差額	22,399,000	43,987,116	21,588,116	
前期繰越収支差額	247,988,933	253,883,148	5,894,215	
次期繰越収支差額	270,387,933	297,870,264	27,482,331	

正味財産増減計算書

令和4年4月1日から令和5年3月31日まで

科 目	当年度	前年度	増減
	円	円	円
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
1. 受取入会金	800,000	300,000	500,000
受 取 入 会 金	800,000	300,000	500,000
2. 受取会費	139,810,000	139,460,000	350,000
正 会 員 受 取 会 費	135,260,000	134,860,000	400,000
賛 助 会 員 受 取 会 費	4,550,000	4,600,000	△ 50,000
3. 事業収益	62,859,940	62,139,421	720,519
出 版 印 刷 物 販 売 料	27,673,990	29,049,116	△ 1,375,126
精 度 管 理 調 査 参 加 料	14,949,950	14,470,305	479,645
広 告 料	3,160,000	3,159,000	1,000
臨 床 検 査 専 門 学 院 受 講 料	2,535,000	2,250,000	285,000
生 涯 学 習 通 信 講 座 受 講 料	13,341,000	11,636,000	1,705,000
医 療 関 連 サ ー ビ ス マ ー ク 事 務 代 行 料	1,200,000	1,575,000	△ 375,000
4. 雑収益	5,891,189	6,122,696	△ 231,507
受 取 利 息	3,803	3,306	497
雑 収 益	5,887,386	6,119,390	△ 232,004
経 常 収 益 計	209,361,129	208,022,117	1,339,012

科 目	当年度	前年度	増減
	円	円	円
Ⅱ. 経常費用			
1. 事業費	90,936,615	85,116,003	5,820,612
人件費用	15,767,871	14,912,709	855,162
退職給付費用	735,500	1,521,000	△ 785,500
印刷製本費	38,906,024	30,039,931	8,866,093
消耗品費	3,080,304	3,306,438	△ 226,134
通信運搬費	4,020,927	3,857,113	163,814
図書費	1,400,850	1,702,416	△ 301,566
租税公課	1,845,635	3,558,335	△ 1,712,700
減価償却費	702,324	1,514,142	△ 811,818
賃借料	11,476,954	11,893,609	△ 416,655
光熱水料費	802,836	682,033	120,803
会議費	17,250	10,000	7,250
旅費交通費	191,395	43,901	147,494
委託費	7,920,000	8,129,000	△ 209,000
諸謝金	2,539,231	2,372,175	167,056
永年勤続表彰費	70,106	58,410	11,696
雑費	1,459,408	1,514,791	△ 55,383
2. 管理費	68,912,525	66,510,061	2,402,464
人件費用	16,234,965	17,525,980	△ 1,291,015
退職給付費用	1,077,500	2,141,000	△ 1,063,500
印刷製本費	80,520	408,166	△ 327,646
消耗品費	450,432	472,614	△ 22,182
通信運搬費	505,086	479,357	25,729
図書費	70,677	76,404	△ 5,727
租税公課	1,510,065	2,911,365	△ 1,401,300
近地旅費	93,002	133,243	△ 40,241
減価償却費	574,628	477,444	97,184
賃借料	10,809,876	10,809,876	0
光熱水料費	656,866	558,027	98,839
支部交付金	20,440,000	20,310,000	130,000
関係団体協賛費	3,550,000	3,450,000	100,000
協会表彰費	459,382	227,766	231,616
組織強化費	207,954	199,154	8,800
システム関連費	5,072,889	863,500	4,209,389
調査・研究費	0	470,728	△ 470,728
総会会場費	812,760	0	812,760
旅費交通費	3,354,679	1,509,200	1,845,479
諸謝金	0	105,801	△ 105,801
雑費	2,951,244	3,380,436	△ 429,192
経常費用計	159,849,140	151,626,064	8,223,076
[当期経常増減額]	49,511,989	56,396,053	△ 6,884,064

科 目	当年度	前年度	増減
	円	円	円
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
経常外収益計	0	0	0
(2) 経常外費用			
備品等除却損	1	0	1
経常外費用計	1	0	0
[当期経常外増減額]	△ 1	0	△ 1
当期一般財産増減額	49,511,988	56,396,053	△ 6,884,065
一般正味財産期首残高	349,078,306	292,682,253	56,396,053
一般正味財産期末残高	398,590,294	349,078,306	49,511,988
正味財産期末残高	398,590,294	349,078,306	398,590,294
II 指定正味財産増減の部			
当期指定正味財産増減額	0	0	0
指定正味財産期首残高	0	0	0
指定正味財産期末残高	0	0	0
正味財産期末残高	0	0	0
III 正味財産期末残高	398,590,294	349,078,306	398,590,294

令和4年度正味財産増減計算書内訳書

令和4年4月1日から令和5年3月31日まで

(単位:円)

科 目	実施事業等会計				その他会計			法人会計	内部取引 消去	合計
	継1 精度管理調査	継2 教育研修	継3 広報	小計	他1 臨床検査普及 月間	他2 医療関連 サービスマーク	小計			
I 一般正味財産増減の部										
1. 経常増減の部										
(1) 経常収益										
受取入会金	0	0	0	0	0	0	0	800,000	0	800,000
入会金				0			0	800,000		800,000
受取会費	0	0	0	0	0	0	0	139,810,000	0	139,810,000
正会員会費				0			0	135,260,000		135,260,000
賛助会員会費				0			0	4,550,000		4,550,000
事業収益	14,949,950	15,876,000	30,196,920	61,022,870	618,125	1,200,000	1,818,125	18,945	0	62,859,940
出版印刷物販売料			27,036,920	27,036,920	618,125		618,125	18,945		27,673,990
精度管理調査参加料	14,949,950			14,949,950				0		14,949,950
広告料			3,160,000	3,160,000			0	0		3,160,000
臨床検査専門学院受講料		2,535,000		2,535,000			0	0		2,535,000
生涯学習通信講座受講料		13,341,000		13,341,000			0	0		13,341,000
医療関連サービスマーク 事務代行料				0		1,200,000	1,200,000	0		1,200,000
雑収益	0	0	0	0	0	0	0	5,891,189	0	5,891,189
受取利息				0			0	3,803		3,803
雑収益				0			0	5,887,386		5,887,386
経常収益計	14,949,950	15,876,000	30,196,920	61,022,870	618,125	1,200,000	1,818,125	146,520,134	0	209,361,129
(2) 経常費用										
事業費	20,668,120	10,019,733	57,508,988	88,196,841	2,701,869	37,905	2,739,774	0	0	90,936,615
人件費	3,556,510	1,808,178	9,917,493	15,282,181	470,023	15,667	485,690			15,767,871
退職給付費用	166,958	80,170	465,571	712,699	22,065	736	22,801			735,500
印刷製本費	1,205,600	3,278,137	33,771,032	38,254,769	651,255		651,255			38,906,024
消耗品費	2,609,298	103,145	348,484	3,060,927	18,826	551	19,377			3,080,304
通信運搬費	568,939	187,420	3,153,515	3,909,874	104,098	6,955	111,053			4,020,927
図書費	0	1,400,850	0	1,400,850			0			1,400,850
租税公課	418,959	201,174	1,168,287	1,788,420	55,369	1,846	57,215			1,845,635
減価償却費	159,428	76,553	444,571	680,552	21,070	702	21,772			702,324
賃借料	2,416,507	1,160,349	6,738,541	10,315,397	1,150,912	10,645	1,161,557			11,476,954
光熱水料費	182,244	87,510	508,194	777,948	24,085	803	24,888			802,836
会議費	17,250	0	0	17,250	0	0	0			17,250
旅費交通費	17,015	60,884	39,356	117,255	74,140		74,140			191,395
委託費	7,920,000	0	0	7,920,000			0			7,920,000
諸謝金	1,280,759	1,069,143	189,329	2,539,231			0			2,539,231
永年勤続表彰費	0	0	0	0	70,106		70,106			70,106
雑費	148,653	506,220	764,615	1,419,488	39,920		39,920			1,459,408
管理費								68,912,525	0	68,912,525
人件費								16,234,965		16,234,965
退職給付費用								1,077,500		1,077,500
印刷製本費								80,520		80,520
消耗品費								450,432		450,432
通信運搬費								505,086		505,086
図書費								70,677		70,677
租税公課								1,510,065		1,510,065

科 目	実施事業等会計				その他会計			法人会計	内部取引 消去	合計
	継1 精度管理調査	継2 教育研修	継3 広報	小計	他1 臨床検査普及 月間	他2 医療関連 サービスマーク	小計			
近地旅費								93,002		93,002
減価償却費								574,628		574,628
賃借料								10,809,876		10,809,876
光熱水料費								656,866		656,866
支部交付金								20,440,000		20,440,000
関係団体協賛費								3,550,000		3,550,000
協会表彰費								459,382		459,382
組織強化費								207,954		207,954
システム関連費								5,072,889		5,072,889
総会会場費								812,760		812,760
旅費交通費								3,354,679		3,354,679
雑費								2,951,244		2,951,244
経常費用計	20,668,120	10,019,733	57,508,988	88,196,841	2,701,869	37,905	2,739,774	68,912,525	0	159,849,140
当期経常増減額	△ 5,718,170	5,856,267	△ 27,312,068	△ 27,173,971	△ 2,083,744	1,162,095	△ 921,649	77,607,608	0	49,511,989
2. 経常外増減の部										
(1) 経常外収益										
経常外収益計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
(2) 経常外費用										
備品等除却損	0	0	0	0	0	0	0	1		1
経常外費用計	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1
当期経常外増減額	0	0	0	0	0	0	0	△ 1	0	△ 1
当期一般正味財産増減額	△ 5,718,170	5,856,267	△ 27,312,068	△ 27,173,971	△ 2,083,744	1,162,095	△ 921,649	77,607,608	0	49,511,988
一般正味財産期首残高	△ 70,054,946	9,368,290	△ 174,178,141	△ 234,864,797	△ 17,668,809	13,791,007	△ 3,877,802	587,820,905	0	349,078,306
一般正味財産期末残高	△ 75,773,116	15,224,557	△ 201,490,209	△ 262,038,768	△ 19,752,553	14,953,102	△ 4,799,451	665,428,513	0	398,590,294
II 指定正味財産増減の部										
当期指定正味財産増減額	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
指定正味財産期首残高	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
指定正味財産期末残高	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
III 正味財産期末残高	△ 75,773,116	15,224,557	△ 201,490,209	△ 262,038,768	△ 19,752,553	14,953,102	△ 4,799,451	665,428,513	0	398,590,294

貸借対照表

令和5年3月31日現在

科 目	当年度	前年度	増減
	円	円	円
[資産の部]			
流動資産			
現 金	261,770	254,599	7,171
普通預貯金	285,756,239	227,231,511	58,524,728
郵便振替貯金	1,213,390	19,304,930	△ 18,091,540
現金預金 計	287,231,399	246,791,040	40,440,359
未収金	42,284,363	31,482,812	10,801,551
立替金	1,719,628	1,766,533	△ 46,905
前払金	0	0	0
前払費用	2,192,820	1,847,940	344,880
その他の流動資産 計	46,196,811	35,097,285	11,099,526
流動資産 中計	333,428,210	281,888,325	51,539,885
固定資産			
特定資産			
退職給付引当預金	29,594,816	25,594,816	4,000,000
周年行事積立預金	18,102,519	15,102,494	3,000,025
会館建設積立預金	42,300,000	42,300,000	0
特定資産 計	89,997,335	82,997,310	7,000,025
その他固定資産			
建物附属設備	4,593,101	5,090,947	△ 497,846
什器備品	1,059,344	116,401	942,943
ソフトウェア	0	0	0
電話加入権	159,265	159,265	0
保証金	16,254,000	16,254,000	0
その他固定資産 計	22,065,710	21,620,613	445,097
固定資産 中計	112,063,045	104,617,923	7,445,122
[資産の部] 合計	445,491,255	386,506,248	58,985,007
[負債の部]			
流動負債			
未払金	17,159,023	9,494,135	7,664,888
預り金	225,938	230,807	△ 4,869
流動負債 中計	17,384,961	9,724,942	7,660,019
固定負債			
退職給付引当金	29,516,000	27,703,000	1,813,000
固定負債 中計	29,516,000	27,703,000	1,813,000
[負債の部] 合計	46,900,961	37,427,942	9,473,019
[正味財産の部]			
一般正味財産	398,590,294	349,078,306	49,511,988
[正味財産合計]	398,590,294	349,078,306	49,511,988
[負債及び正味財産合計]	445,491,255	386,506,248	58,985,007

財務諸表に対する注記

1. 重要な会計方針

(1) 棚卸資産の評価基準及び評価方法

出版物…移動平均法による原価法によっている。

(2) 固定資産の減価償却の方法

①建物附属設備は、定額法により固定資産帳簿価額を直接減額している。

②什器備品は、定率法により固定資産帳簿価額を直接減額している。

③ソフトウェアは、耐用年数を5年とし定額法によっている。

(3) 引当金の計上基準

退職給付引当金…期末退職給与の自己都合要支給額に相当する金額を計上している。

(4) リース取引の処理方法

リース物件の所有権が借主に移転すると認められるもの以外のファイナンス・リース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっている。

(5) 消費税等の会計処理

消費税等の会計処理は、税込方式によっている。

2. 特定資産の増減額及びその残高

特定資産の増減額及びその残高は、次のとおりである。 (単位：円)

科 目	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
特定資産				
退職給付引当預金	25,594,816	4,000,000	0	29,594,816
周年行事積立預金	15,102,494	3,000,025	0	18,102,519
会館建設積立預金	42,300,000	0	0	42,300,000
合 計	82,997,310	7,000,025	0	89,997,335

3. 特定資産の財源等の内訳

特定資産の増減額及びその残高は、次のとおりである。 (単位：円)

科 目	当期末残高	(うち指定正味 財産からの 充当額)	(うち一般正味 財産からの 充当額)	(うち負債に 対応する額)
特定資産				
退職給付引当預金	29,594,816	(0)	(0)	(29,516,000)
周年行事積立預金	18,102,519	(0)	(18,102,519)	(0)
会館建設積立預金	42,300,000	(0)	(42,300,000)	(0)
合 計	89,997,335	(0)	(60,402,519)	(29,516,000)

4. 固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高

固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高は、次のとおりである。 (単位：円)

科 目	取得価額	減価償却累計額	当期末残高
建物附属設備	6,916,381	2,323,280	4,593,101
什器備品	7,442,104	6,382,760	1,059,344
ソフトウェア	0	0	0
合 計	14,358,485	8,706,040	5,652,445

附属明細書

1. 基本財産及び特定資産の明細

財務諸表の注記2に記載済みの為省略いたしました。

2. 引当金の明細

(単位：円)

科 目	期首残高	当期増加額	当期減少額		期末残高
			目的使用	その他	
退職給付引当金	27,703,000	1,813,000	0	0	29,516,000

財 産 目 録

令和5年3月31日 現在

		金 額		
		円	円	円
[資 産 の 部]				
流 動 資 産				
現金預金				
現 金		261,770		
普通預貯金		285,756,239		
三菱UFJ銀行 麹町中央支店		48,483,819		
みずほ銀行 麹町支店		101,416,294		
みずほ銀行 麹町支店		8		
三井住友銀行 麹町支店		135,573,770		
ゆうちょ銀行		282,348		
ゆうちょ銀行振替貯金		1,213,390		
現金預金 計		287,231,399		
その他の流動資産				
未 収 金		42,284,363		
立 替 金		1,719,628		
前 払 費 用		2,192,820		
その他の流動資産 計		46,196,811		
流 動 資 産 中計			333,428,210	
固 定 資 産				
特定資産				
退職給付引当預金		29,594,816		
(三菱UFJ銀行 定期預金)				
周年行事積立預金		18,102,519		
(みずほ銀行 定期預金)				
会館建設積立預金		42,300,000		
(三菱UFJ銀行 定期預金)				
特定資産 小計		89,997,335		
その他固定資産				
建物附属設備		4,593,101		
什器備品		1,059,344		
ソフトウェア		0		
電話加入権		159,265		
保 証 金		16,254,000		
その他固定資産 小計		22,065,710		
固 定 資 産 中計			112,063,045	
[資 産 の 部] 合計				445,491,255

勘 定 科 目		金 額		
		円	円	円
[負 債 の 部]				
流動負債				
未払金		17,159,023		
預り金		225,938		
流動負債	中計		17,384,961	
固定負債				
退職給付引当金		29,516,000		
流動負債	中計		29,516,000	
[負 債 の 部]	合計			46,900,961
正味財産				398,590,294

監査報告書

令和5年5月8日

一般社団法人日本衛生検査所協会

会長 久川 芳三 殿

一般社団法人日本衛生検査所協会

監事 飛鳥田 功 ⑩

監事 勝間田 清人 ⑩

監事 森山 高行 ⑩

私たち監事は、令和4年4月1日から令和5年3月31日までの事業年度における業務及び会計に関する監査を行いましたので、その方法及び結果について次のとおり報告いたします。

1. 監査の方法及びその内容

各監事は、理事及び使用人等と意思疎通を図り、情報の収集及び監査の環境の整備に努めるとともに、理事会その他重要な会議に出席し、理事及び使用人等からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求め、重要な決裁書類等を閲覧し、業務及び財産の状況を調査し、当該事業年度に係る事業報告について検討いたしました。

また、会計帳簿及びこれに関する資料の調査を行い、当該事業年度に係る計算書類及びその附属明細書について検討いたしました。

2. 監査意見

(1) 事業報告等の監査結果

事業報告は、法令及び定款に従い、法人の状況を正しく示しているものと認めます。また、理事の職務の執行に関する不正の行為又は法令及び定款に違反する重大な事実は認められません。

(2) 計算書類及び附属明細書の監査結果

計算書類及び附属明細書は、法人の財産及び損益の状況をすべての重要な点において適正に示しているものと認めます。

以上

第 2 号 議 案

役員選任に関する件

[理 事]

(就 任) 伊 達 忠 應 氏 (札幌臨床検査センター株式会社)

畑 中 保 広 氏 (株式会社エスアールエル)

保知戸 和 憲 氏 (一般社団法人日本衛生検査所協会)

山 下 哲 次 氏 (一般社団法人日本衛生検査所協会)

(退 任) 庄 司 吉 人 氏 (札幌臨床検査センター株式会社)

近 藤 功 治 氏 (一般社団法人日本衛生検査所協会)

福 川 辰 之 氏 (一般社団法人日本衛生検査所協会)

(任期：令和 5 年 5 月 17 日～令和 6 年 5 月開催の定時総会終結まで)

第 3 号 議 案

そ の 他

参 考 资 料

令和5年度 事業基本方針

(令和5年3月23日理事会)

1. With/after コロナ時代における各種事業の運営
 - ・ ZOOM 活用による各種会議の運営促進
 - ・ 各種イベント（定時総会・月間大会等）の運営の検討

2. 災害対策の推進
 - 1) 自然災害等による業務中断リスクへの対応策の検討
 - ・ 会員間における BCP 対応システムの検討（BCP 検討委員会）
 - ・ 臨床検査振興協議会大規模災害対策委員会との連携等
 - 2) 新型コロナウイルス感染症への対応及び新興・再興感染症への対策強化
 - 3) サイバーセキュリティ対策の強化

3. 行政との連携の推進
 - 1) 臨床検査関連法令の遵守と対応（精度管理委員会、学術委員会）
 - ・ 法令に則った精度保証の強化等
 - 2) ゲノム医療等の新分野に対する受託体制の整備（遺伝関連検査受託倫理審査委員会、学術委員会）
 - ・ 診療報酬改善要望の検討
 - ・ データヘルス改革（全ゲノム解析・AI 利活用・ビッグデータの活用等）への対応の検討等
 - 3) 将来を見据えた臨床検査業界の課題に対する次期関連法令の見直し
 - 4) 令和6年度に向けた予算税制改正要望の検討（総務労務委員会）

4. 精度管理の向上及び標準化へ向けての検討
 - 1) 日衛協精度管理調査の実施（精度管理委員会）
 - ・ 調査項目及び配布試料の検討
 - ・ 新型コロナウイルス PCR 検査サーベランス継続実施の検討等
 - 2) 共用基準範囲の導入に向けた検討（学術委員会、渉外委員会）
 - ・ 関連学会からの要請・ユーザーの移行などの調査研究
 - ・ 会員間における BCP 対応システム導入に向けた検討等
 - 3) 臨床検査項目標準マスターの導入に向けた検討（学術委員会、渉外委員会）
 - ・ JLAC10、JLAC11 の周知、導入検討の推進
 - ・ 会員間における BCP 対応システム導入に向けた検討等

5. 公正で適正な営業、取引の推進

- 1) 衛生検査所業営業原則及びコンプライアンスの遵守
- 2) 公正競争規約等の法令遵守
- 3) 適正な商取引の推進

6. 広報活動の充実

- 1) 広く国民に向けた臨床検査及び衛生検査所に係る広報の実施（広報委員会）
 - ・一般公募エッセイ、霞が関子ども見学デーの実施等
- 2) 各種媒体による広報活動の推進（広報委員会、渉外委員会）
 - ・協会誌「ラボ」、臨床検査普及ポスター、日衛協ホームページ・SNS 活用の検討、医療フォーラム 21 冊子等
- 3) 関係団体との連携による推進（広報委員会）
 - ・臨床検査振興協議会広報委員会との連携等

7. 教育・研修事業の充実

- 1) 教育・研修の充実（学術委員会、生涯学習推進専門委員会）
 - ・生涯学習通信講座の充実の検討
 - ・日本臨床検査専門学院の WEB 配信拡大の検討
- 2) 学術研究発表会の開催と充実（学術委員会）
- 3) 関連団体との共同事業の検討（学術委員会）
 - ・（一社）日本臨床衛生検査技師会との共同事業の実施、等

8. 日衛協創立 50 周年記念事業への取組み

以上

令和5年度 事業計画

1 With/after コロナ時代における各種事業の運営

- ・ ZOOM活用による各種会議の運営促進
- ・ 各種イベント（定時総会・月間大会等）の運営の検討

新型コロナウイルス感染症の発生から3年が経過し、今春、感染症法の改正により指定感染症から季節性インフルエンザ相当の5類感染症となることが検討されており、対面での会議等も増加することが想定されるが、Web会議（ZOOM）の併用による各種会議等の運営が定着しつつあり、出席者の利便性や経費削減の観点から、今後もWeb会議の併用を継続する。

また、定時総会及び臨床検査普及月間大会の運営については、都市部や複数支部での共同開催等に見直すことを検討し、With/after コロナ時代にあった事業運営を行うこととする。

2 災害対策の推進

(1) 自然災害等による業務中断リスクへの対応策の検討

- ・ 会員間におけるBCP対応システムの検討（BCP検討委員会）
- ・ 臨床検査振興協議会 大規模災害対策委員会との連携、等

近年多発する大規模自然災害（地震、台風による風水害、火山噴火、豪雪等）等を教訓に、近い将来、発生が予想される大規模自然災害に対する備えが喫緊の課題となっている。

このような状況において臨床検査振興協議会の大規模災害対策委員会では、有事の際の各団体の役割分担等について検討が進められている。

一方、当協会においても、BCP対策検討委員会において会員へのBCP策定状況の聞き取り調査を基に、有事の際に会員の受託業務再開に役立つ共有データベース管理システム構築に向けて課題整理やデータベース構成、運用方法等の検討を重ねている。

しかしながら、同システムの稼働までには相当の時間を要すると思われるため、会員各社におかれても最悪の状況を想定して対策を講じてもらいたい。

(2) 新型コロナウイルス感染症への対応及び新興・再興感染症への対策強化

新型コロナウイルス感染症をはじめ、その他の新興・再興感染症に対して、国、行政との連携を図り、意見、要望を行っていくと共に、会員各社におかれても今回の新型コロナウイルス感染症への対策を教訓に十分な備えを講じてもらいたい。

(3) サイバーセキュリティ対策の強化

近年、医療現場の多くで情報通信技術が活用される中、コンピュータウイルスによる感染事案が相次いで報告されているため、会員各社においても、厚生労働省の「医療機関等におけるサイバーセキュリティ対策の強化について」の通知を準拠するとともに、当協会としてもサイバーセキュリティ対策に関する講習会の実施等を検討する。

3 行政との連携の推進

(1) 臨床検査関連法令の遵守と対応（精度管理委員会、学術委員会）

当協会会員が臨床検査関連法令並びに通知を遵守し、国民により安心・安全で適切な医療を提供するため、外部精度管理調査の充実を図り検体検査の精度保証を強化する。

- (2) ゲノム医療等の新分野に対する受託体制の整備（遺伝子関連検査受託倫理審査委員会、学術委員会）

技術の進展に伴いがんや難病患者を対象とした全ゲノム解析が進められるようになり、厚生労働省においては、「全ゲノム解析等の推進に関する専門委員会」が設置され、全ゲノム解析等の成果を患者に還元するとともに、研究・創薬などに向けた活用を進め、新たな個別化医療等を患者に届けるための体制整備を進める「全ゲノム解析等実行計画」の推進が検討されている。このようなゲノム医療等の新分野に対応するため、全ゲノム解析等への協力、個別化医療への対応、検体検査の受託体制やカウンセリング体制、人材育成・教育、ELSI（倫理的・法的・社会的課題）等の整備を推進するとともに、検査コストに見合う診療報酬改善の要望を検討する。

また、マイナポータルを通じて、自身の保健医療情報を把握できるようにする仕組みが整備されつつあり、電子カルテの検査結果情報や健診・検診情報等のビックデータやAI技術の活用も検討が進められており、それらへの対応を検討する。

- (3) 将来を見据えた臨床検査業界の課題に対する次期関連法令の見直し

令和5年度厚生労働科学研究費補助金の「衛生検査所等の適切な登録基準の確立のための研究」が、昨年12月21日に公募された。（本研究では、平成30年12月に改正された「医療法等の一部を改正する法律」による負担増加や登録基準の課題、第三者認証・認定の取得への支援等の課題について提言することを目的としている。）

当協会では研究分担者や研究協力者の推薦や、検査事業検討委員会において将来を見据えた臨床検査業界の課題に対する次期関連法令を検討し同研究に協力する。

- (4) 令和6年度に向けた予算税制改正要望の検討（総務労務委員会）

令和6年度の予算税制改正に向け、課題の抽出及び要望を検討し、厚生労働省に提出する。

4 精度管理の向上及び標準化へ向けての検討

診断、治療、経過観察や予防において必要不可欠な検体検査の精度管理のあり方等を検討し、検査精度の維持・向上を図る。

また、地域連携や災害対策等を勘案した共有データベースの構築等に必要となる検体検査の標準コードや基準範囲の標準化への対応を検討し推進する。

- (1) 日衛協精度管理調査の実施（精度管理委員会）

臨床検査関連法令の遵守に向け、会員及びブランチラボを対象に外部精度管理調査を実施し、調査結果検討会や精度改善研修会により検査精度の維持・向上を図る。

また、時代に即した精度管理調査項目となるよう会員の検体検査実施状況やニーズを調査し、調査項目等の見直しを検討する。

- 1) 第49回臨床検査精度管理調査の実施
- 2) 第48回臨床検査精度管理調査結果検討会、精度改善研修会の実施
- 3) 精度管理調査項目の見直し
- 4) 新型コロナウイルスPCR検査サーベランス継続実施の検討 等

(2) 共用基準範囲の導入に向けた検討 (学術委員会)

(3) 臨床検査項目標準マスターの導入に向けた検討 (学術委員会)

当協会の各衛生検査所は、医療機関からの要請を受けた際、各社の判断にて共用基準範囲や臨床検査項目標準マスター (JLAC) を導入しているが、今後ますます地域医療連携が進むに従い、その対応が求められる。

更に大規模災害への備えとして会員各社のバイタルレコードを標準化し、データベースを共有化するための BCP 対応システムの導入においても、検体検査の受委託コードや基準範囲の標準化が必要となる。

そのため関連学会や関連団体、国・行政の動向や医療機関の導入状況などの情報収集を行い会員に向けて情報提供を行うとともに会員各社の検査案内のあり方等を検討する。

5 公正で適正な商取引の推進

検体検査の価値を高め適正な評価を得るため、衛生検査所業公正競争規約等のコンプライアンスの遵守及び衛生検査所業営業原則等に則った適正な商取引を推進する。

(1) 衛生検査所業営業原則及びコンプライアンスの遵守

(2) 公正競争規約等の法令遵守

(3) 適正な商取引の推進

6 広報活動の充実

広報活動の充実を図り、臨床検査と日本衛生検査所協会並びに衛生検査所の重要性と役割を医療業界内外へ周知する広報事業を展開する。

また、臨床検査振興協議会等とも連携しながら臨床検査の有用性、必要性を国民等に発信する啓発事業を展開する。

(1) 広く国民に向けた臨床検査及び衛生検査所に係る広報の実施 (広報委員会)

新型コロナウイルス感染症の蔓延に伴い、PCR 検査の重要性について国民への周知が行われた。

更に、新型コロナウイルス検査以外にも、検体検査の有用性、必要性を広く国民に周知して参りたい。その手段として、一般公募エッセイ等の実施並びに霞が関子ども見学デーが実施された場合の協力をを行う。

- 1) 臨床検査の重要性、有用性の周知
- 2) 日本衛生検査所協会及び衛生検査所の社会的責任の周知
- 3) 検体検査の実施内容の紹介
- 4) 高水準な精度管理による検体検査の実施の紹介 等

(2) 各種媒体による広報活動の推進 (広報委員会)

- 1) 協会誌「ラボ」及びホームページの充実
- 2) 臨床検査の普及を目的としたポスター、広報ツールの製作
- 3) 第 24 回一般公募エッセイの募集
- 4) 医療フォーラム 21 の実施報告書の発行 等

- (3) 関係団体との連携による推進（広報委員会）
臨床検査振興協議会広報委員会と連携し、臨床検査関連団体の広報活動を検討する。

7 教育・研修事業の充実

- (1) 教育・研修の充実（学術委員会、生涯学習推進専門委員会）
 - 1) 衛生検査所生涯学習通信講座の開講と充実
これまでテキストや問題集、解答書など紙媒体と郵送による運営であったが、令和5年度よりE-Learningツールを導入し、利便性および精度向上を目的として運営改善に取り組む。
 - 2) 日本臨床検査専門学院・第48期生化学コースの開講とあり方の検討
令和2年度に導入した日本臨床検査専門学院の全国Web配信を継続・拡充し、受講者の増員を図ることとする。
- (2) 学術研究発表会・第29回全国大会の開催と充実（学術委員会）
発表者、座長、聴講者間のハイブリッド開催を検討し、同発表会の充実を図る。
- (3) 関連団体との共同事業の検討（学術委員会）
日本臨床衛生検査技師会と連携し、学術研究発表会等の共同事業の実施等を検討する。

8 第46回臨床検査普及月間の事業の実施

- (1) 本部・支部主催による臨床検査普及月間大会の開催
支部負担の軽減やWith/afterコロナ時代にあった事業運営を勘案し、都市部や複数支部での共同開催等に見直すことを検討する。
- (2) 学術研究発表会の開催
- (3) 精度管理調査の実施
- (4) 医療フォーラム21の開催
- (5) 医療安全の推進

9 日衛協創立50周年記念事業への取組み

昭和48年3月に日衛協の前身である全国臨床検査所協会が創設され、令和5年3月に創立50周年を迎える。

50周年の節目となる日衛協創立50周年記念事業を次の要領で実施する。

開催日：令和5年5月17日（水）

会場：東京都・千代田区 ホテルニューオータニ

内容：実行委員会を設置し、検討

10 行政機関、関係諸団体との連携、協力等の推進

- (1) 厚生労働省をはじめとする関係官庁との連絡調整及び施策に関する協力並びに提言

- (2) 臨床検査振興協議会、医療関連サービス振興会等への参画
- (3) 日本臨床検査医学会、日本臨床検査専門医会、日本臨床衛生検査技師会、日本臨床検査標準協議会、日本病理学会等の臨床検査関連団体との協力体制の強化及び提言
- (4) 日本医師会、日本病院会等の関係団体との連携
- (5) 日本衛生検査所連盟、自由民主党臨床検査に関する制度推進議員連盟の支援、協力及び陳情

11 理事会、常任理事会及び各種委員会の開催

(1) 理事会、常任理事会の開催

- 1) 理事会の開催 3回/年 (内 臨時理事会 1回)
- 2) 常任理事会の開催 2回/年

(2) 常設委員会、専門委員会、特別機関等の開催

<常設委員会>

- 1) 総務労務委員会の開催 6回/年 (内 書面審議 1回)
- 2) 学術委員会の開催 4回/年
 - 学術研究発表会検討 WG1 2回/年
 - 衛生検査所教育検討 WG2 2回/年
 - 微生物関連 GL 作成 WG3 2回/年
 - 精度管理・QMS 用 GL 作成 WG4 2回/年
 - 検査情報の判定基準設定 GL 作成 WG5 2回/年
 - 対外的学術検討 WG6 2回/年
- 3) 広報委員会の開催 10回/年
- 4) 全国運営管理委員会 8回/年

<専門委員会>

- 1) 生涯学習推進専門委員会の開催 4回/年

<特別機関>

- 1) 精度管理委員会の開催 2回/年
 - 地区委員会 3回/年
- 2) 遺伝子関連検査受託倫理審査委員会 3回/年
 - 遺伝子検査小委員会 1回/年
 - 染色体小委員会 1回/年
- 3) BCP 検討委員会の開催 4回/年
- 4) 検査事業検討委員会 4回/年

以上

令和5年度収支予算書

令和5年4月1日から令和6年3月31日

科 目	予 算 額	前年度予算額	増 減 額	備 考
	円	円	円	
【 事業活動収支の部 】				
I 事業活動収入				
1. 入会金収入	400,000	400,000	0	
入 会 金	400,000	400,000	0	
2. 会費収入	140,355,000	139,930,000	425,000	
正 会 員 会 費	135,755,000	135,330,000	425,000	
賛 助 会 員 会 費	4,600,000	4,600,000	0	
3. 事業収入	61,647,000	60,658,000	989,000	
精 度 管 理 指 導 料	14,810,000	14,410,000	400,000	
広 告 料	2,800,000	2,800,000	0	「ラボ」掲載広告料
臨 床 検 査 専 門 学 院 受 講 料	2,200,000	1,300,000	900,000	
出 版 印 刷 物 販 売 料	27,937,000	28,693,000	△ 756,000	協会誌「ラボ」購読料他
生 涯 学 習 通 信 講 座 受 講 料	12,500,000	12,230,000	270,000	
医 療 関 連 サ ー ビ ス マ ー ク	1,400,000	1,225,000	175,000	
事 務 代 行 料				
4. 雑収入	8,378,500	14,375,000	△ 5,996,500	
受 取 利 息	3,500	5,000	△ 1,500	
雑 収 入	8,375,000	14,370,000	△ 5,995,000	総会参加費、事務所費、損害賠償責任保険手数料、他
5. 特定資産取崩収入	35,250,000	0	35,250,000	
退 職 給 付 引 当 預 金 取 崩 収 入	17,250,000	0	17,250,000	
周 年 行 事 積 立 預 金 取 崩 収 入	18,000,000	0	18,000,000	
事業活動収入計	246,030,500	215,363,000	30,667,500	
II 事業活動支出				
1. 事業費支出	102,709,000	102,633,000	76,000	
臨 床 検 査 月 間 費	1,452,000	1,456,000	△ 4,000	永年勤続表彰関連費用、会場費
学 術 ・ 研 修 会 費	1,270,000	1,760,000	△ 490,000	発表者旅費等、セミナー開催費
精 度 管 理 調 査 運 営 費	15,000,000	15,000,000	0	交通費、謝金、精度管理調査費他
臨 床 検 査 専 門 学 院 運 営 費	900,000	900,000	0	講師料、諸経費
印 刷 製 本 費	35,045,000	34,195,000	850,000	協会誌「ラボ」、広報関連費用
生 涯 学 習 運 営 費	4,653,000	6,037,000	△ 1,384,000	テキスト作成等
支 部 交 付 金	25,760,000	20,440,000	5,320,000	
関 係 団 体 協 賛 費	3,450,000	3,450,000	0	振興協会、JCCLS等
委 員 会 費	5,065,000	4,625,000	440,000	委員会交通費、会場費等
医 療 フ ォ ー ラ ム 21 運 営 費	2,810,000	2,600,000	210,000	会場費、冊子印刷費
サ ー ビ ス マ ー ク 推 進 費	40,000	40,000	0	申請資料発送費
協 会 表 彰 費	500,000	1,340,000	△ 840,000	表彰者盾、記念品、交通費
公 募 エ ッ セ イ 表 彰 費	350,000	350,000	0	エッセイ募集
組 織 強 化 費	1,900,000	2,090,000	△ 190,000	全国事務局会議経費等
シ ス テ ム 関 連 費	1,954,000	5,905,000	△ 3,951,000	ホームページ諸経費、TV会議諸経費等
調 査 ・ 研 究 費	1,050,000	850,000	200,000	
雑 費	1,510,000	1,595,000	△ 85,000	振込手数料、倉庫料、清掃料他
2. 管理費支出	69,164,600	65,821,000	3,343,600	
人 件 費	37,470,000	35,535,000	1,935,000	
消 耗 品 費	200,000	200,000	0	
事 務 用 品 費	100,000	100,000	0	
印 刷 費	1,450,000	1,500,000	△ 50,000	資料、封筒、名刺等印刷代等
図 書 費	85,000	85,000	0	
通 信 運 搬 費	941,000	941,000	0	電話料金、宅急便代、切手代他
事 務 所 費	21,500,000	21,500,000	0	事務所費
水 道 光 熱 費	1,800,000	1,500,000	300,000	
租 税 公 課	3,428,600	2,170,000	1,258,600	消費税、法人住民税
近 地 旅 費	100,000	200,000	△ 100,000	
雑 費	2,090,000	2,090,000	0	会計士、弁護士顧問料

科 目	予 算 額	前年度予算額	増 減 額	備 考
	円	円	円	
3. 会議費支出	6,160,000	14,410,000	△ 8,250,000	
総 会 費	1,000,000	8,500,000	△ 7,500,000	
賀 詞 交 歓 会 開 催 費	2,000,000	2,000,000	0	
会 議 費	400,000	400,000	0	
旅 費 交 通 費	2,760,000	3,510,000	△ 750,000	理事会、正副会長会議 会場費他 理事会、常任理事等役員旅費他
4. 他会計への繰入金支出	23,000,000	0	23,000,000	
創立50周年記念事業特別会計 への繰入金支出	23,000,000	0	23,000,000	
事業活動支出計	201,033,600	182,864,000	18,169,600	
事業活動収支差額	44,996,900	32,499,000	12,497,900	
【 投資活動収支の部 】				
II. 投資活動支出				
1. 特定資産取得支出	5,500,000	7,000,000	△ 1,500,000	
退職給付引当預金支出	2,500,000	4,000,000	△ 1,500,000	
周年事業積立預金支出	3,000,000	3,000,000	0	
2. 固定資産取得支出	1,000,000	2,100,000	△ 1,600,000	
什器備品購入支出	500,000	2,100,000	△ 1,600,000	
ソフトウェア購入支出	500,000	0	500,000	
3. その他固定負債支出	17,250,000	0	17,250,000	
退職引当金支出	17,250,000	0	17,250,000	
投資活動支出計	23,750,000	9,100,000	14,650,000	
投資活動収支差額	△ 23,750,000	△ 9,100,000	△ 14,650,000	
【 予備費支出 】	1,000,000	1,000,000	0	
当期収支差額	20,246,900	22,399,000	△ 2,152,100	
前期繰越収支差額	247,988,933	247,988,933		
次期繰越収支差額	268,235,833	270,387,933		

創立50周年記念事業特別会計収支予算書

科 目	予 算 額	備 考
	円	
【 事業活動収支の部 】		
I 事業活動収入		
1. 雑収入	5,400,000	
参 加 費	5,400,000	12,000円×450名
2. 他会計からの繰入金収入	23,000,000	
一般会計からの繰入金収入	23,000,000	
事業活動収入計	28,400,000	
II 事業活動支出		
1. 事業費支出	28,400,000	
会 場 ・ 祝 賀 会 費	13,500,000	
講演・シンポジウム謝金	500,000	忽那賢志氏
周年記念品代	2,000,000	500名
厚生労働大臣表彰費	800,000	7名
アトラクション費	900,000	
企画運営・機材費	4,500,000	記念式典・祝賀会・司会
印 刷 費	550,000	プログラム、入場券
周年記念史発行費	5,000,000	
寄 付 金	300,000	山中伸弥氏
雑 費	350,000	
事業活動支出計	28,400,000	
事業活動収支差額	0	
当期収支差額	0	
前期繰越収支差額	0	
次期繰越収支差額	0	